

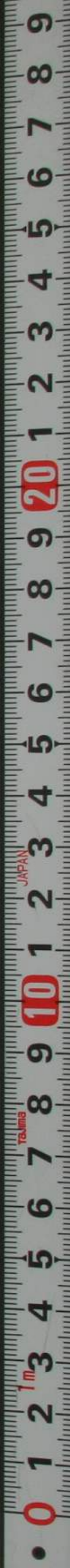


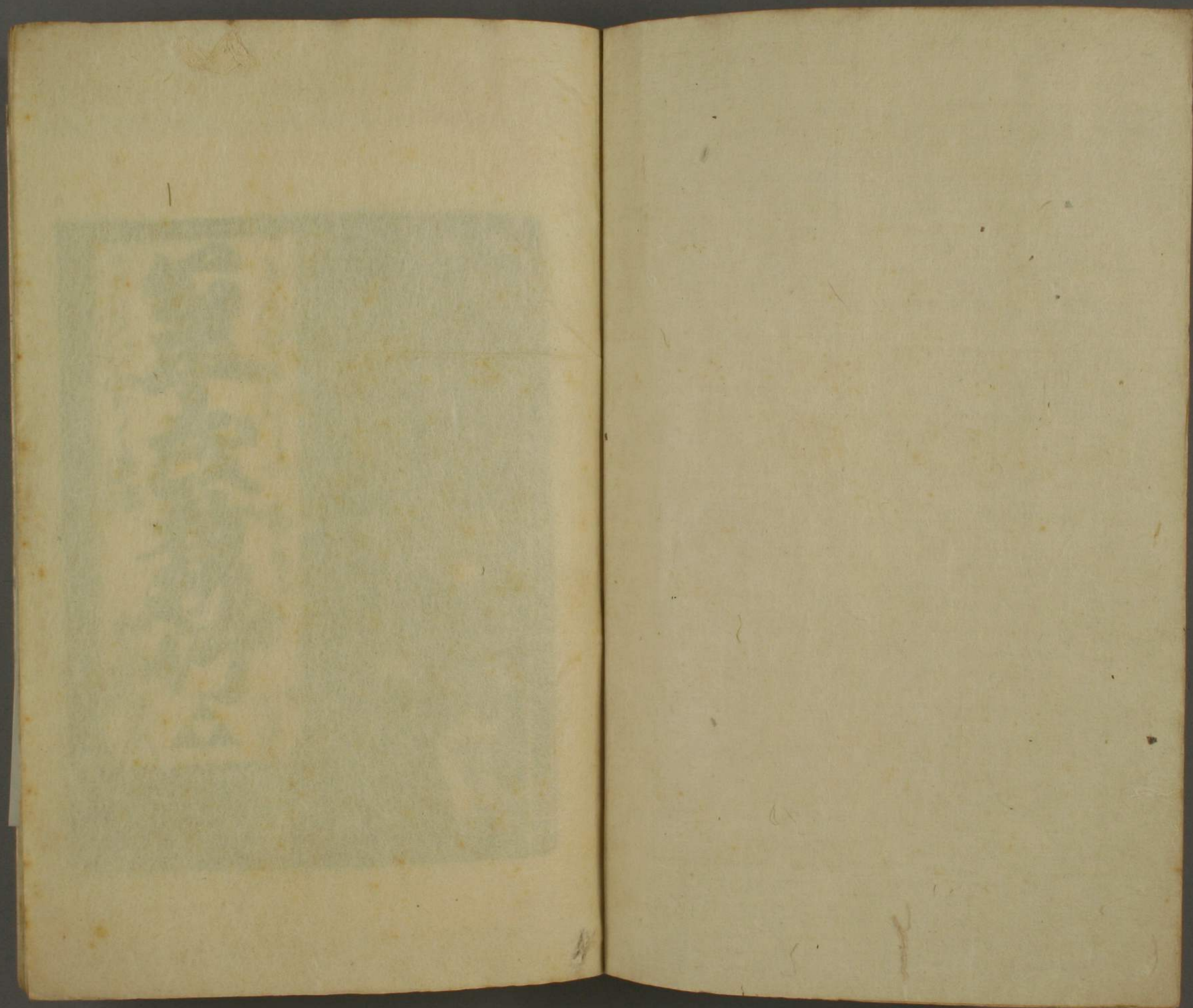
考古圖纂

四



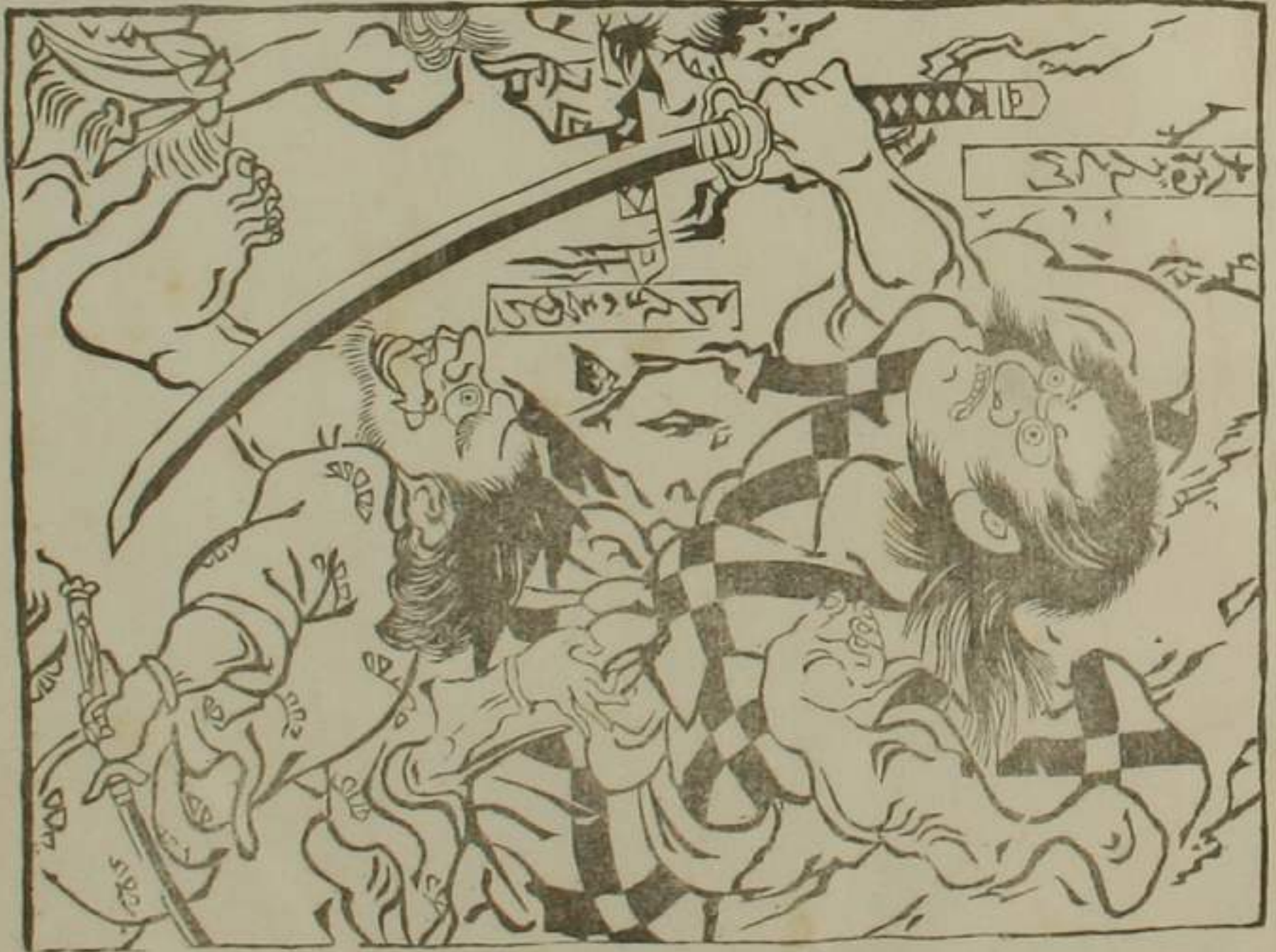
多
1392
4



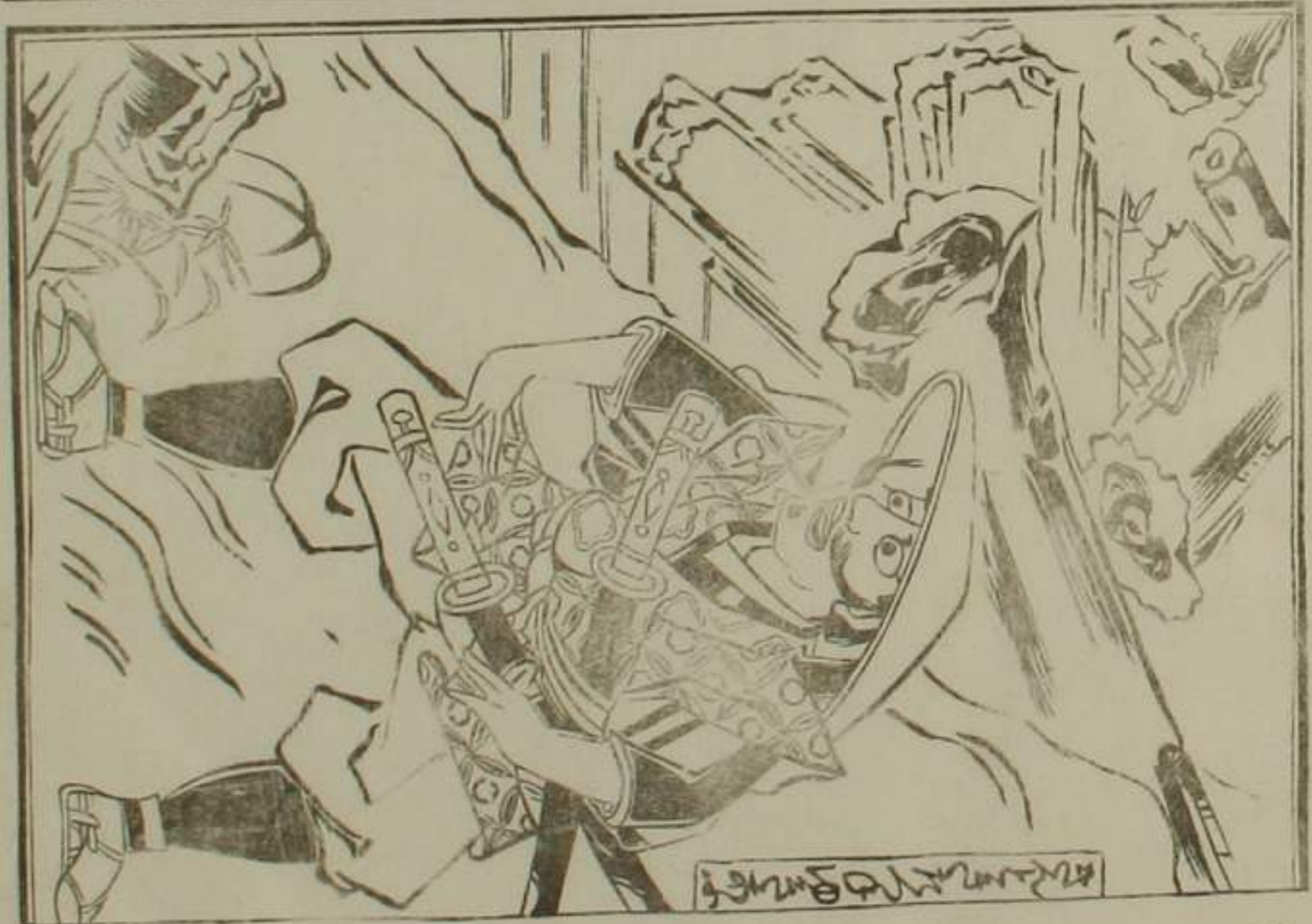
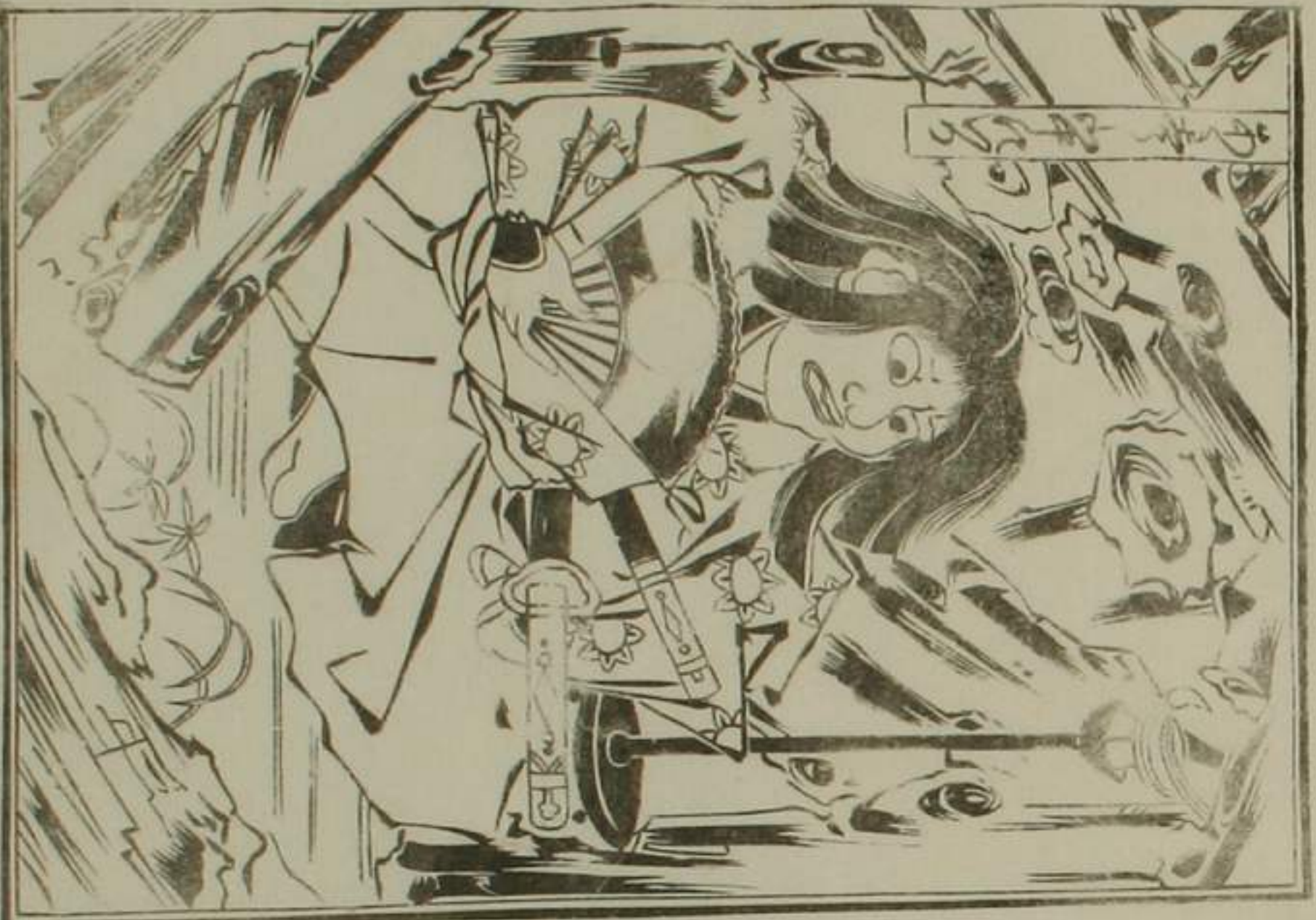




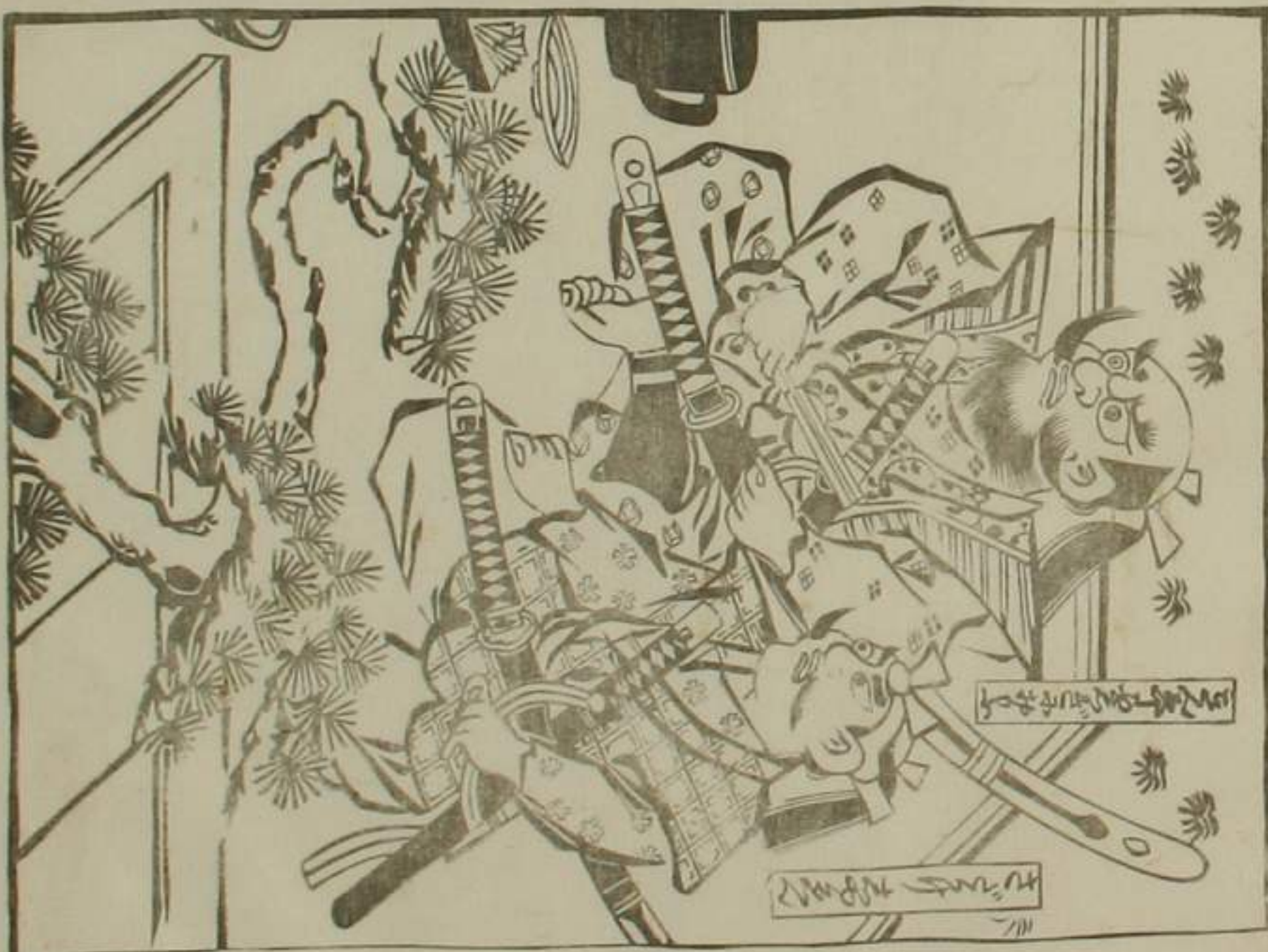
平んむらじや
 筆
 大徳馬
 三曾
 三曾



勇金平



公平談庄記



公平長者執行



子へし=9-42) 山田



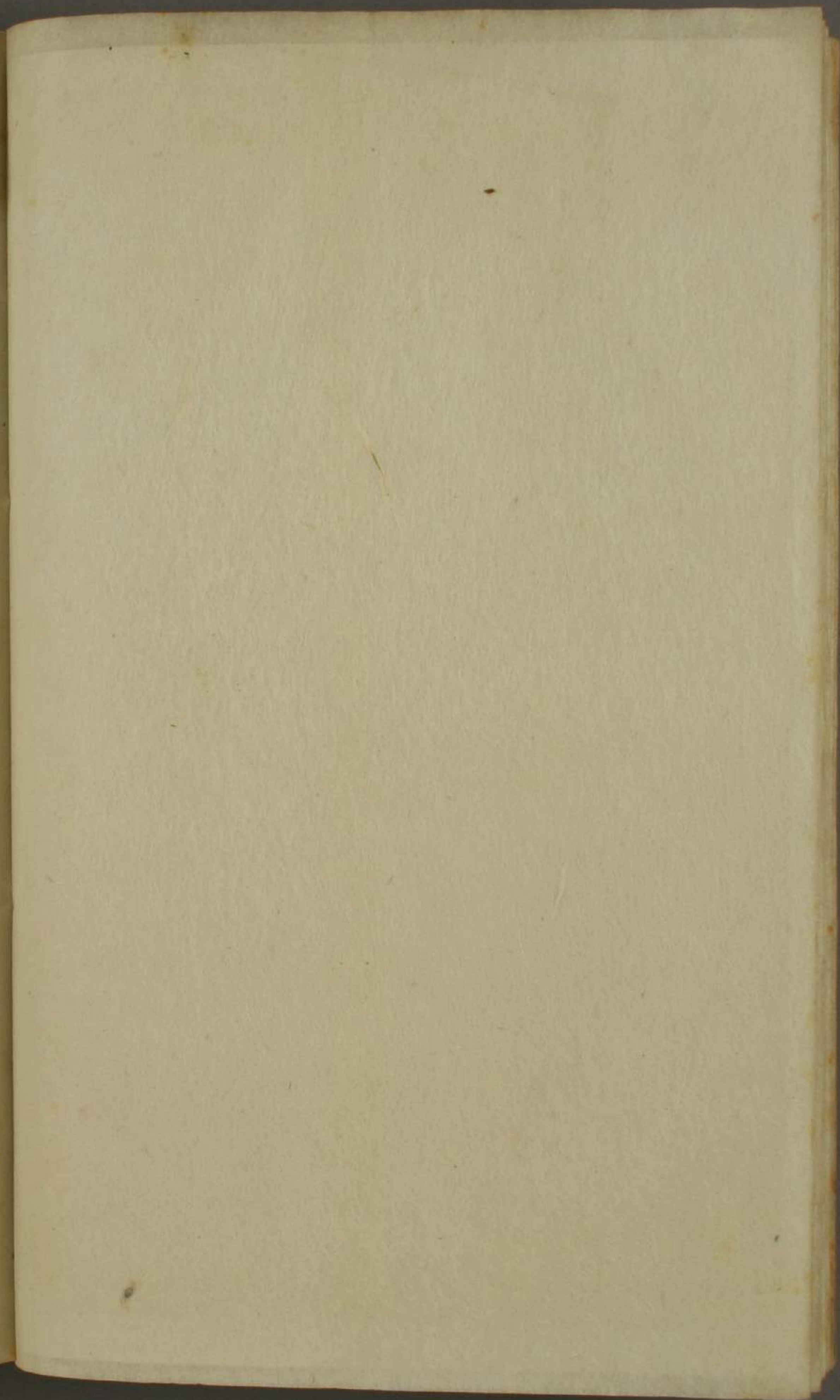
京今宮本陣

神名帳標目松考 草稿

此考書ハ延キ式ヲ神若松の首松標目ニヨリて考ヘ
 一 考合ニヨリテ之の考合ニヨリて松若松の中を
 一 考合ニヨリテ之の考合ニヨリて松若松の中を
 一 考合ニヨリテ之の考合ニヨリて松若松の中を
 一 考合ニヨリテ之の考合ニヨリて松若松の中を

卷九首 式
 神名上 宮中京中五歲内
東山

卷九の首曰ハ神名下東山北麓山隈山際西海トありかく
 七神名ト云々





萬古常驚
破青山色
連飛

甲寅秋日戲作
一條界

阿

山

弼



其真今而故理又將本此之... 豈嘗許馬之人乎結豈又嘗許... 其真今而故理又將本此之... 豈嘗許馬之人乎結豈又嘗許... 其真今而故理又將本此之... 豈嘗許馬之人乎結豈又嘗許...

贈正四位竹內式部君碑銘

越之新瀉產偉人焉曰竹內式部君諱敬持實曆中在京師謀與復皇室事纔就緒而沮格不行遂貶竄以死明治二十四年贈正四位祀靖國神社君生於醫家幼好學長遊京師從玉木葦齋兼修儒學神學葦齋山崎垂加再傳弟子也又究兵學長武技當此時德川氏專政權既九世矣中外之事無大小盡出其手自諸侯至國人皆朝觀謳歌江戶莫知有京師者京師邑入甚少供御時告空乏幕府防閑又極嚴至尊終世希出宮門君深慨于此銳意欲匡濟之以爲朝權之所以下移由歷世在位之不學不德若能反其道勉學慎德續紹祖業則天下靡然悅服將軍亦必自奉還政權矣苟不然而欲假兵力爭之雖得必失蓋據孔聖十世希不失之語料幕府傳世之不永冀朝廷有所自立以收反正之功也因辨明大義名分揭臣子當務之要以鼓舞人心聽者如披雲霧而觀青天靡不豁然開悟君之初入京也仕德大寺氏德大寺大納言公城首受其學正親町三條大納言公積鳥丸大納言光胤坊城中納言俊逸岩倉中納言恒具高野中將隆古西洞院少納言時名等相繼入門而皆爲天子近習於是欲行其所得盡心輔導奏開神代卷講筵公城俊逸隆古時名膺講說之任其將進講先延君質問討議究啓沃之方然後入講上傾聽嘉納深悅其忠也謂非式部學說無足聽者君無位於朝然其所懷抱借近侍諸公之口敷陳於至尊之前至尊信賴至於如此可不謂之千載一遇乎公城等欣欣相謂中興可庶幾焉時有流言廷臣在式部門籍者結黨造甲疑有異圖如者又媒孽之於關白關白素不悅垂加學乃恐其生事端累及主上固請停神書講筵悉黜近習上不許強而後可於是削正親町三條大納言以下二十三人官職薙髮屏居而命幕府逮君亂治無所得乃構成微罪處追放時寶曆九年五月也其後山縣大貳獄起人又告君預其反謀於是再逮繫江戶獄按驗無實然以嘗犯禁入京師罪之流八丈島未至明和四年十二月五日以病歿於三宅島年五十六嗚呼君以眇眇之身當幕府勢饑薰灼之日奮然冒大難謀興皇運於既衰其忠誠義烈金石可鑠而時機未會再罹縲紲遂至隕命於絕海孤島之中可勝歎哉寶曆諸公既被罷黜不能有所爲然道義之沁人心者磅礴鬱積愈久而愈熾或因著書以意見或戒子孫繼其志若倉中納言後嗣恒引志士有所咨議而明治元勳贈大政大臣實爲中納言六世孫自言少時在祖父膝下聞寶曆事而興起內大臣德大寺侯爵亦爲大納言五世孫其餘功臣又多寶曆諸公後裔然則式部君之志雖不伸於生前其効大顯於身後宜乎褒贈之典崇祀之榮照耀泉壤君其可以無憾矣君既負罪竄死子孫又不詳所在裨史野乘從架謬說或以爲丹波人或以爲長崎人以故雖有寵命無稱述之者予因參取當時實錄又訪鄉人審其爲新瀉產著事蹟考一卷辨正其誣妄頃者新瀉市人胥謀建石於白山公園不朽其事以文屬予予謂君之事蹟久失其真今而始明又得本土之人表彰之如久客歸鄉以增國華以昭士範何其快也雖然君之所經畫事關皇室其功烈又赫赫如此君豈啻新瀉之人乎哉豈又啻越後之人乎哉銘曰

幕府擅權海內駿奔邸第櫛比貢篚山屯如何京師事多悲酸宮門不啓軒墀晝昏君策復古立意纂美先德後力行絕譎詭本立道生慎終謀始中興可期君臣喜起尊王斥霸繁有徒庶之于行君爲權輿惜也中沮橫罹罪辜一時藏機以俟後圖爰迨明治宿氛消蕩百度一新天人欣仰鴻業攸由恩逮泉壤褒贈優渥歲時禋享白山之園信水之濱青松交蔭白沙鋪銀桓桓豐碑茲表偉人銘辭無愧永詔千春

明治四十年三月

東京帝國大學文科大學教授從四位勳三等文學博士

星野恒撰

廿四孝屏風之內 元和二年頃

狩野体白七十七歳

狩野体白筆

狩野岩舟筆

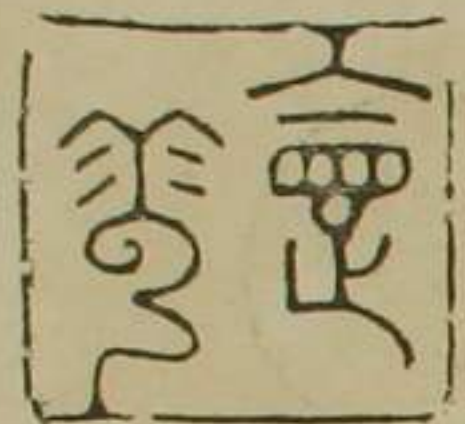


同上
休白昌信始稱左衛門茲按真信之
印未考此時真信稱四郎二郎實名
未有後元服稱真信
其時休伯女真信為長信歟

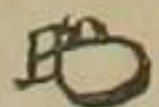
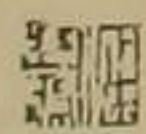
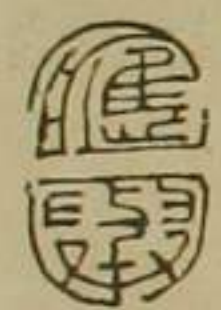
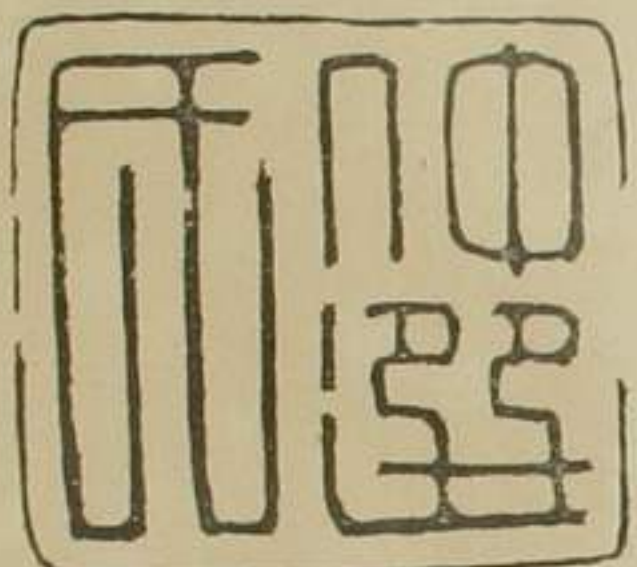
此外有狩野采女守信同休白長信同右近衛將監守信之畫

補

夏雲



平安圓氏



牡丹
睡猫

紙本墨画
近衛家藏

應舉



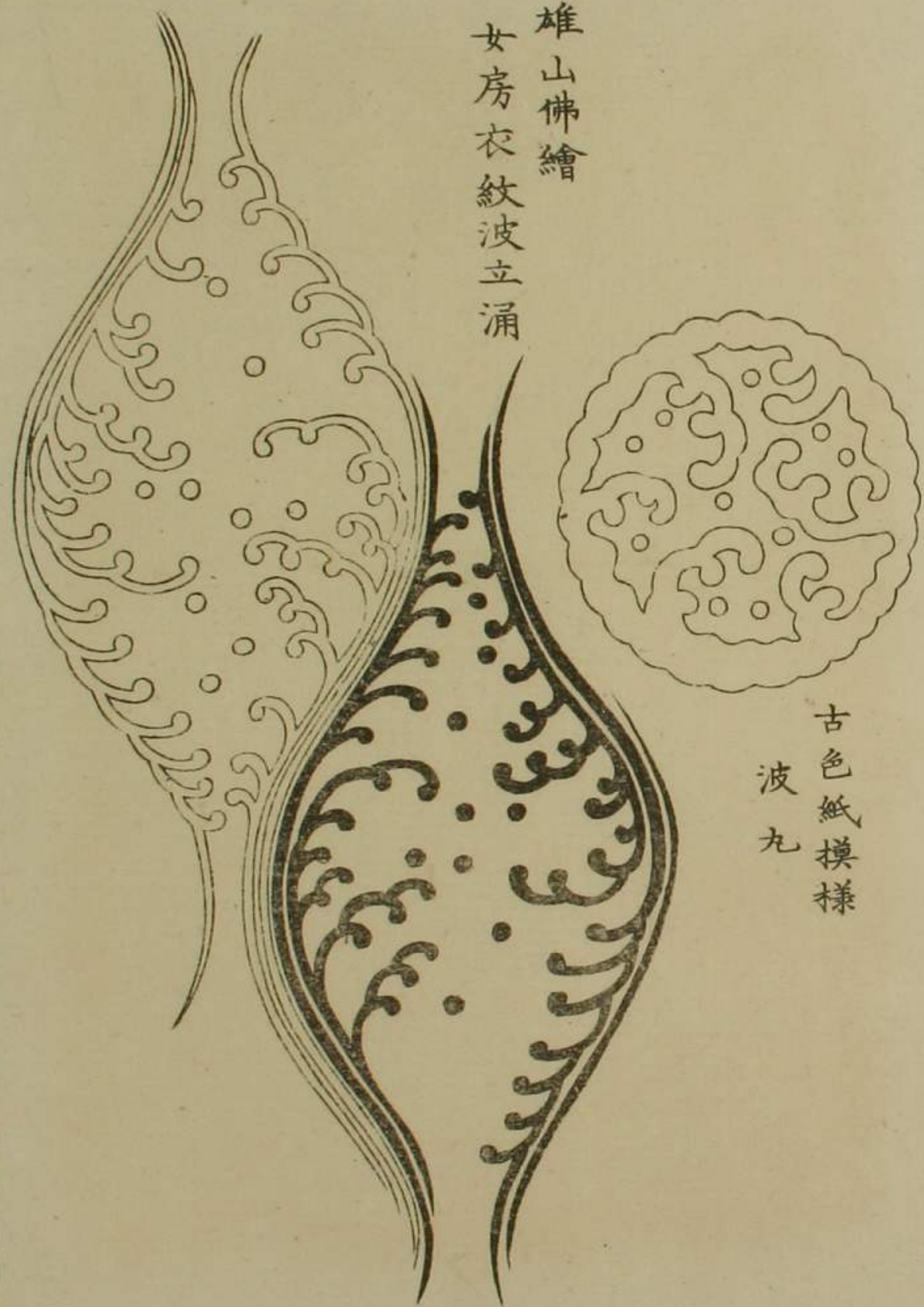
山水
應舉

明和丁亥夏日

藤應舉

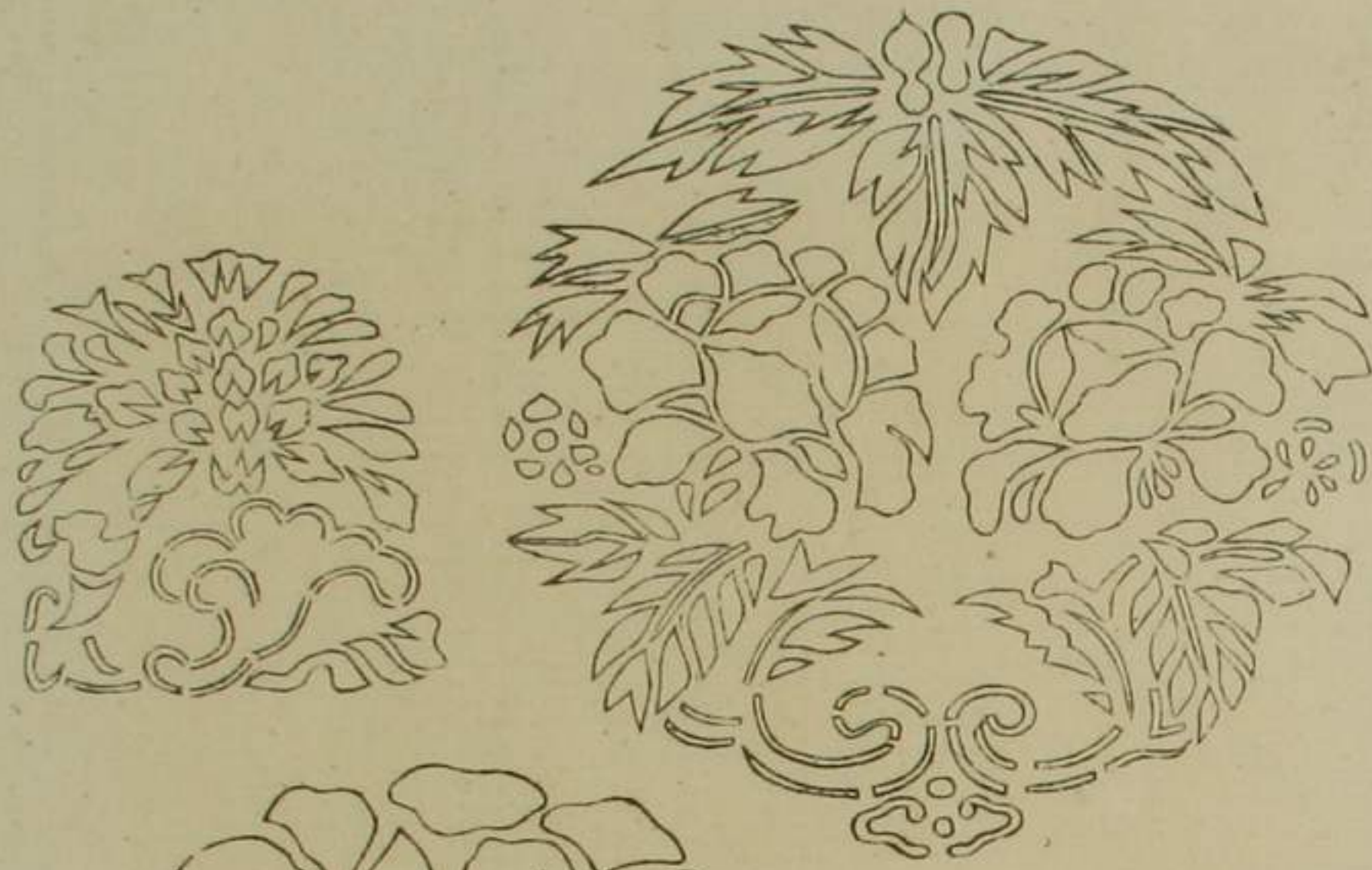
山水圖紙本墨画
梨木宮御藏品

高雄山佛繪
女房衣紋波立涌

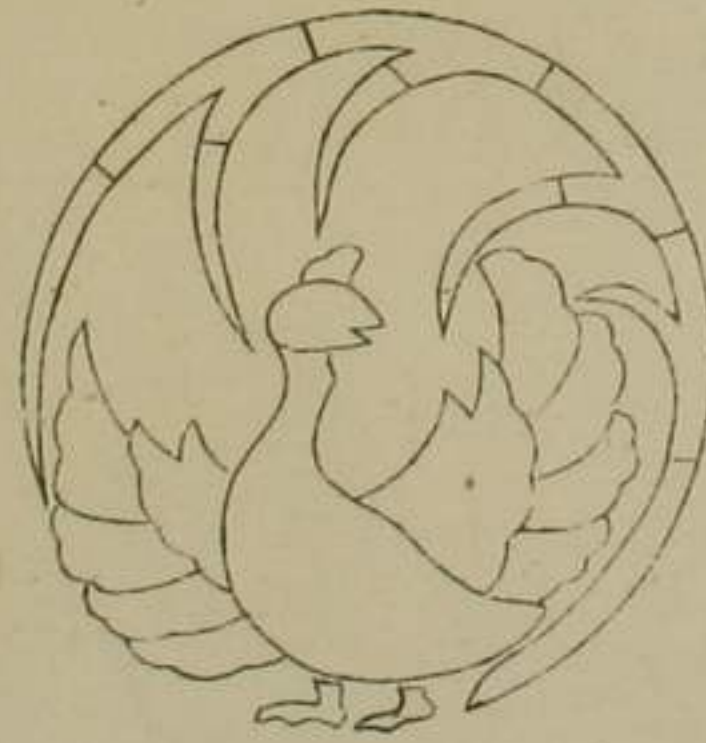
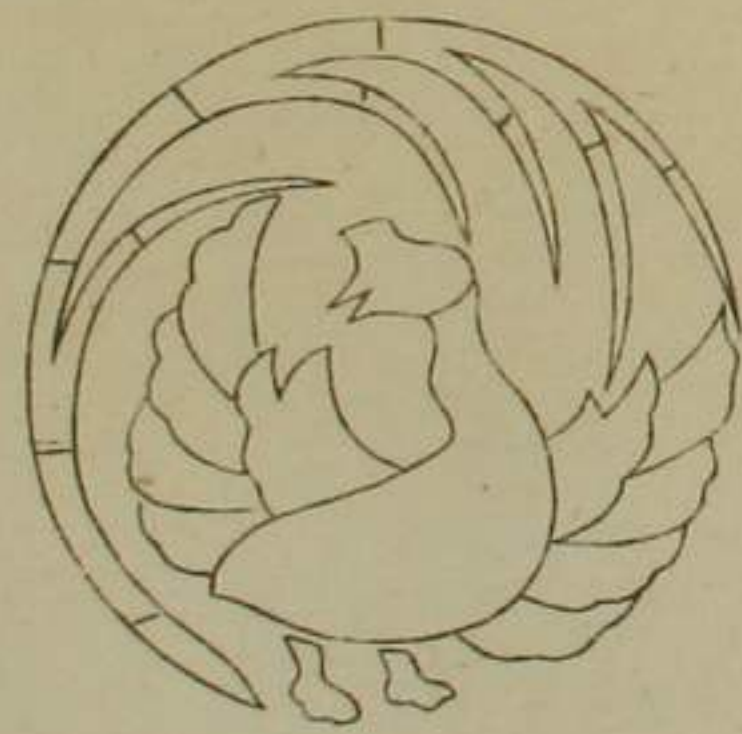
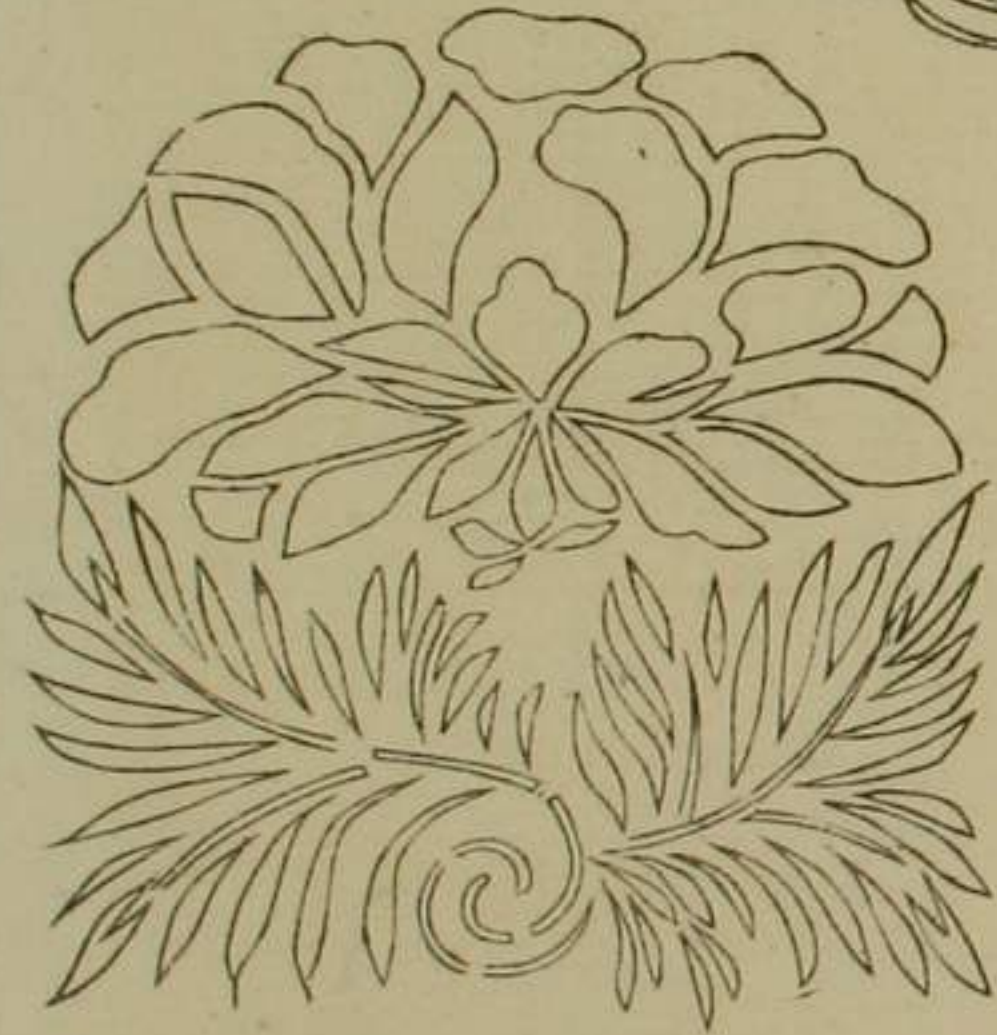


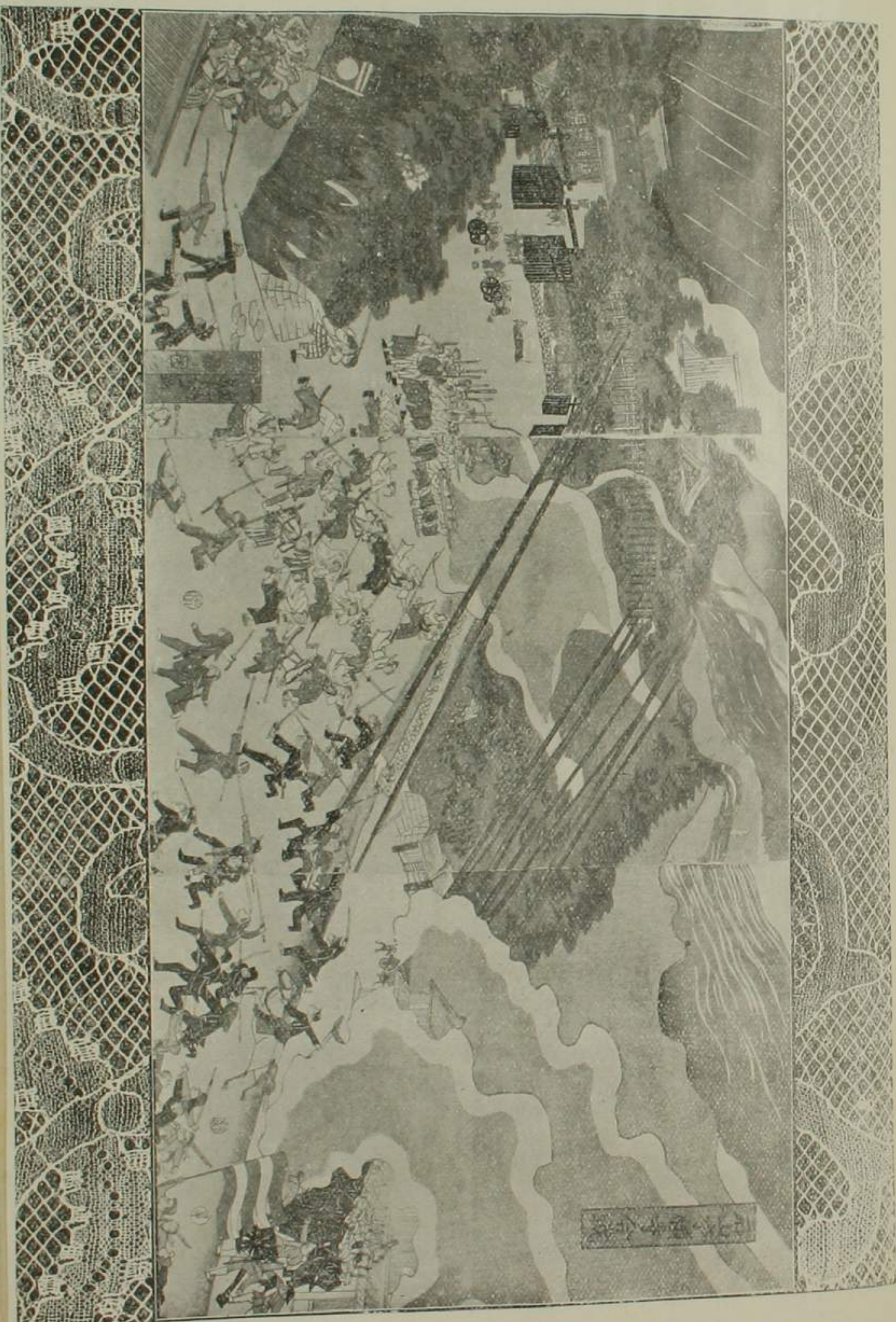
古色紙模様
波丸

鳴瀧山印金堂張附印金紋



法隆寺辛櫃紋
螺鈿鳳凰丸





石原重五郎氏藏
 上野の戦い當時の真景、例のお上を標りて、石原水西等合戦と題したれど、仔細に視られん、位置之令と
 異なり、馬門の著るき、清原等の立てる、其の他影懸と官軍との入り亂れたる合戦、説明し得たりといふべし。
 此は砂田朝貞の國村源石原氏の談にて、氏の坦君のまはら松盛りの頃京橋邊にて求めたるものなるが、この銅繪
 原景大藏に載せたる水西等合戦と同種にして二日目に於ては發行停止となりたりと云ふ。

怒載
が卷 ナポレオンの筆跡に
就いて

大なる過誤あり、案ふに、石原萬岳昨冬來腦神經衰弱に罹りて、百日餘も筆を抛つての悲運に會したりしが。其の前中村博士より聴きたることを誤解せるならんか、左に博士よりの來翰を擧げ謹んで訂正す、(編者)

帝國書報第三年第七號の口繪の中にあるナポレオン絶筆とある寫眞の絶筆の二字及び其解説には大した誤りがあるのでは非正誤して戴きたい。識者には笑はれ一般の讀者には誤りを傳へるとなる罪深きとなれば、小生はあの説明にある様とは申さざりし積りなるが何かの間違ひなりしならん。

あれの原物は巴里の郊外にある「フォンテンブロー」の宮殿の中にあるものでナポレオンの自筆には相違ないが絶筆ではない寫眞の中の左隅にある通り一千八百十四年の四月六日にかいたもので其來歴は前年の十月十八日獨逸ライプツヒにて戰利あらず佛國に歸りしが連合軍の和議を入れざりしかば連合軍は佛國に侵入し三月三十日に巴里を陥れたればナポレオンは「フォンテンブロー」に入りしに四月一日に佛國セナトはナポレオンの位を廢したるにより己を得ず之を承諾せる趣を書せし親書なり

四月二十日に、彼はフォンテーブローに於て己れの親兵と訣別し五月四日にエルバ島に着せしなり
其後彼はエルバ島を免れ出で再び歐洲を震駭せしむるの活劇を演じたりしなり。文句の中にあるは黒痕にして血痕には非

す之は文を書する際非常に立腹しつゝ書きしものにて名署はせざりしなりフォンテンブローの宮殿には彼が此書を認めし時に使用せし圓形の卓子今に保存せらる其卓子には彼掲前りてナイフを突き立てしと云ふ痕あり。

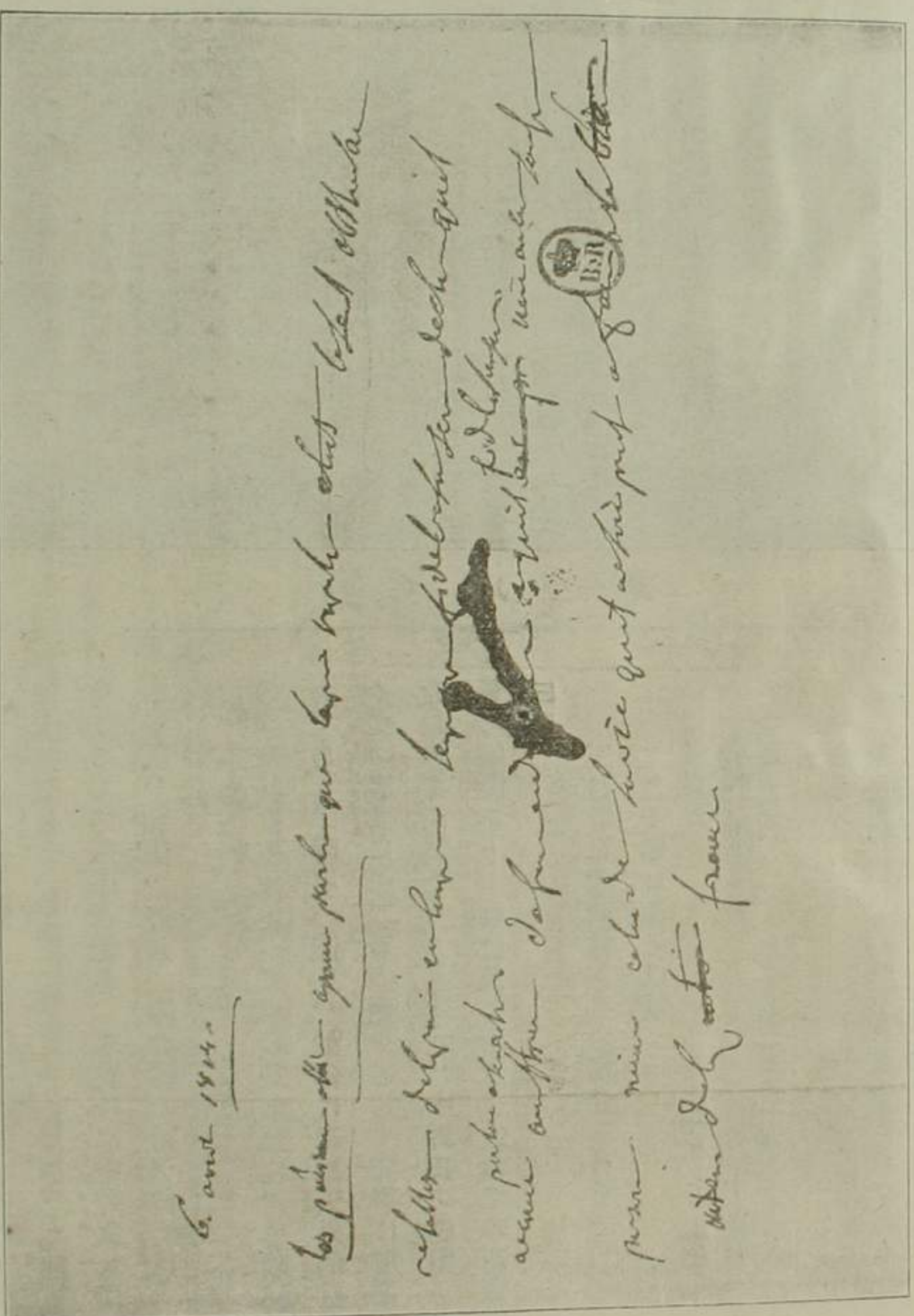
拜啓ナポレオンの自筆讀み悪いから或は御役に立つかと思ひ次に原文及び譯文を差出します御間に合へば結構

中村 清二

Les puissances alliées ayant proclamé que l'Empereur Napoléon était le seul obstacle au rétablissement de la paix en Europe, l'Empereur Napoléon, fidèle à son serment, déclare qu'il renonce, pour lui et ses héritiers, aux trônes de France et d'Italie, et qu'il n'est aucun sacrifice personnel, même celui de la vie, qu'il ne soit prêt à faire à l'intérêt de la France.

之を譯して見れば
列強同盟國は皇帝ナポレオンが歐羅巴の平和恢復に對する唯一の妨害なることを宣言したるにより皇帝ナポレオンは彼の誓に遵ひ茲に彼及び彼の相續者がフランスとイターとの皇位を棄權すると及びフランスの爲めには彼自身の生命をも犠牲に供するに躊躇せざることを公言す

敗れたる轉瞬の間に、勝つべき轉瞬の機會あり (ナポレオン)

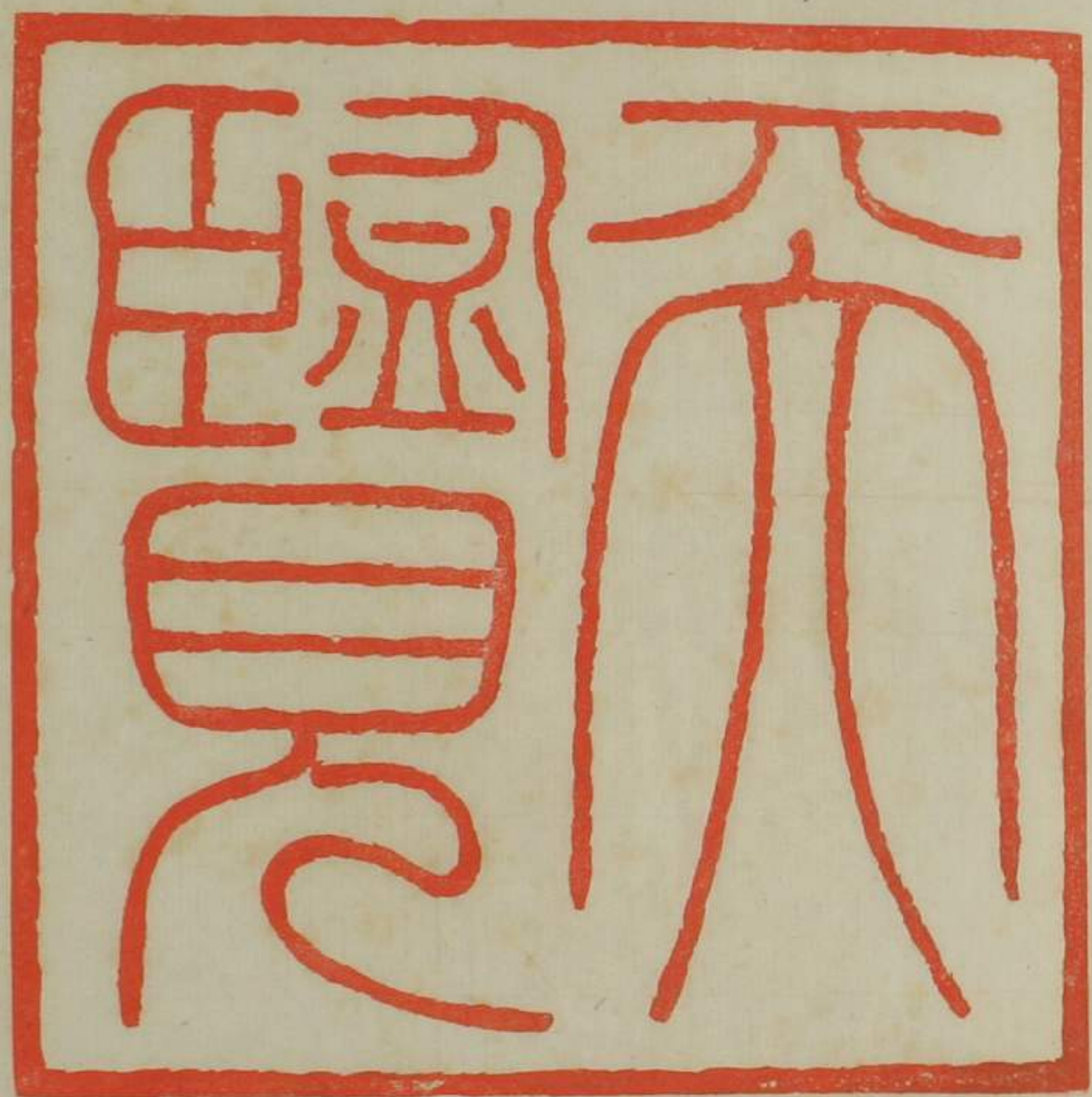


弊院の繪葉書はすべて此見本の如き木版極彩色摺にし、英國宮庭に於ても頗る稱賛を受け、其他汎く内外人の珍賞を博しつゝ、あるものあり



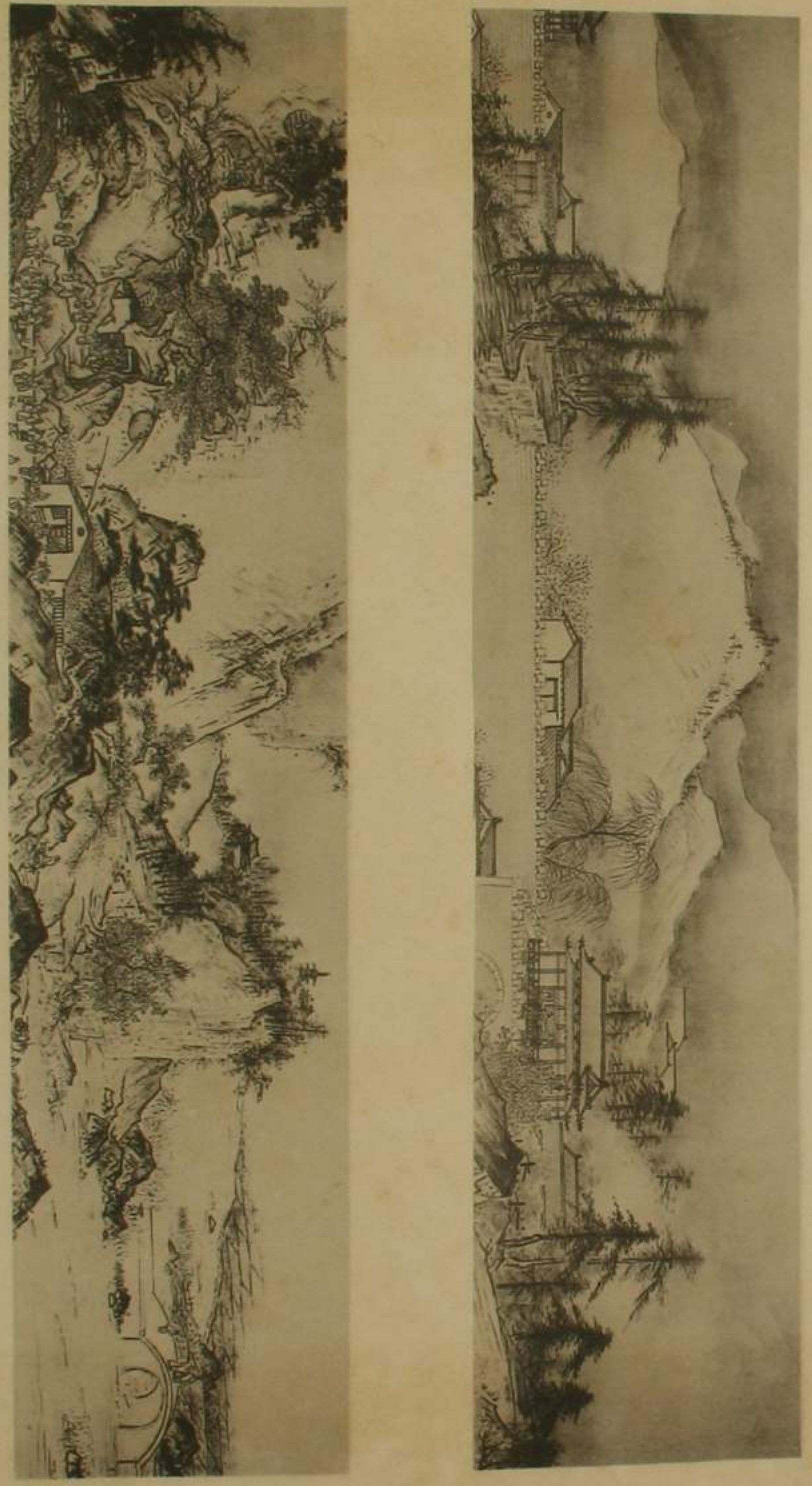
By Kiyonaga of the Ukiyoe School.

筆長清



アヤシハラ
シカ
入
正
刻
印

貞觀之四十八年唐舟家書物二十七號不後



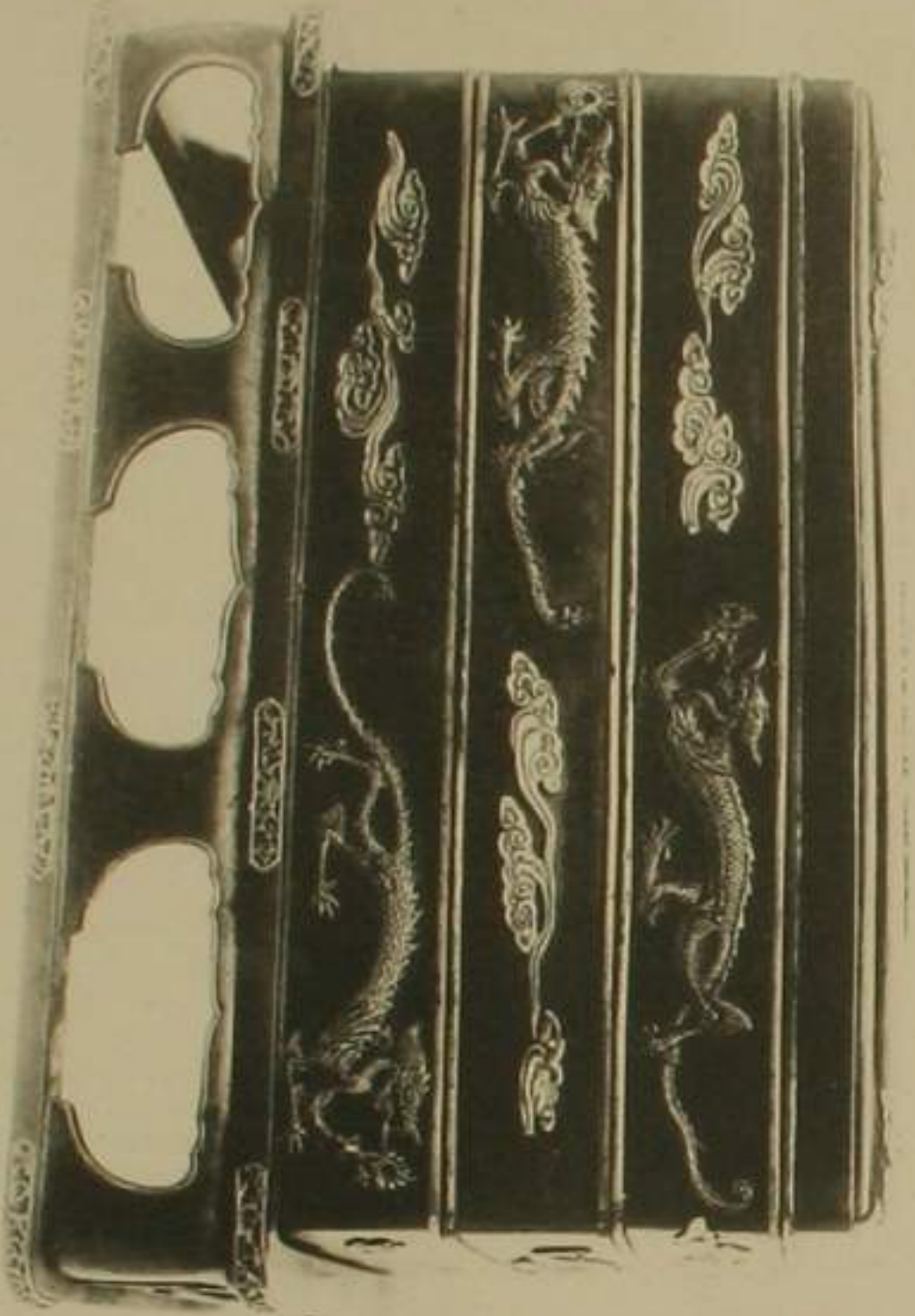
公書 毛刊元跋尾

雨舍圖 乘舟圖



舟中一景

一景中舟之



平武内匠工器
本家神比

十由觀身像 大和法華寺



木彫高三尺二寸 光厳天皇御所より佛師毛筆の写り

救 暎 菩 薩 像



大 和 秋 藤 寺 心

文珠菩薩像



具福寺

文品萃



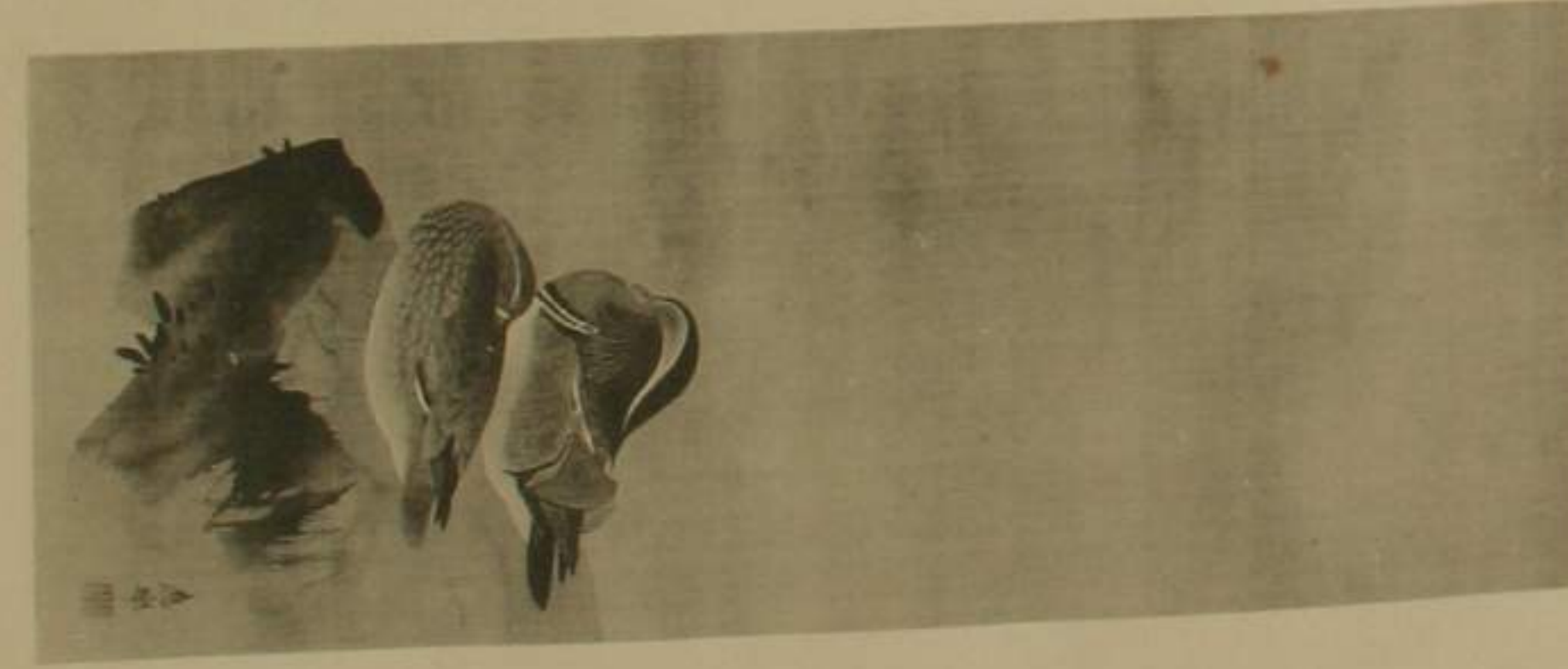


表 檜 裏

▲紀傳	ニ カ テ	二 ム ハ	●	經	ニ カ テ	二 ム ハ	▲
史記	ル ル	レ レ	●	尚書	ル ル	レ レ	▲
文選	ル ル	レ レ	●	毛詩	ル ル	レ レ	▲
前漢	ル ル	レ レ	●	周易	ル ル	レ レ	▲
後漢	ル ル	レ レ	●	春秋	ル ル	レ レ	▲
等用之	ル ル	レ レ	●	周禮	ル ル	レ レ	▲
	ル ル	レ レ	●	禮記	ル ル	レ レ	▲
	ル ル	レ レ	●	論語	ル ル	レ レ	▲
	ル ル	レ レ	●	孝經	ル ル	レ レ	▲
	ル ル	レ レ	●	孟子	ル ル	レ レ	▲
	ル ル	レ レ	●	老子	ル ル	レ レ	▲
	ル ル	レ レ	●	莊子	ル ル	レ レ	▲
	ル ル	レ レ	●	揚子	ル ル	レ レ	▲
	ル ル	レ レ	●	荀子	ル ル	レ レ	▲
	ル ル	レ レ	●	文子	ル ル	レ レ	▲
	ル ル	レ レ	●	等用之	ル ル	レ レ	▲

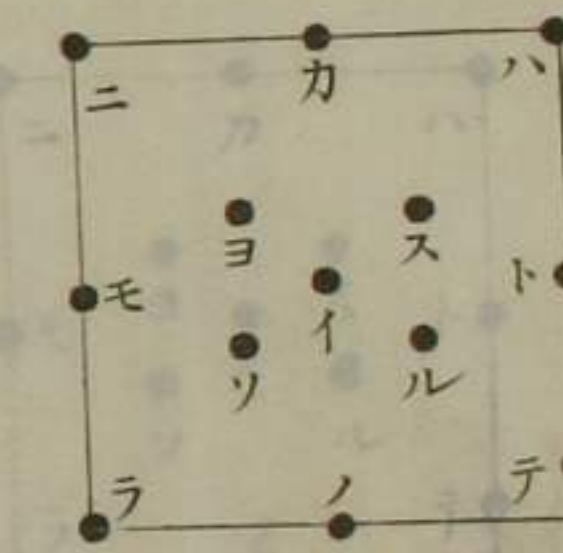
訓
漢
引
合

吳
漢
音
引
合

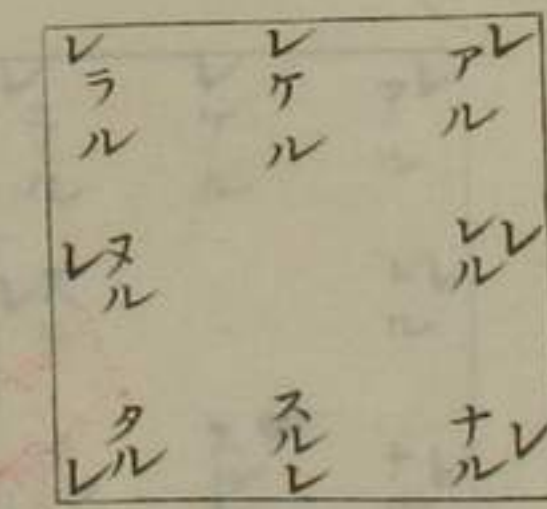
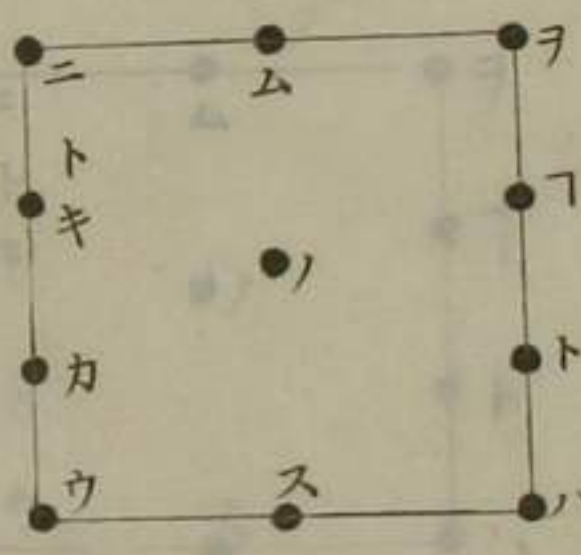
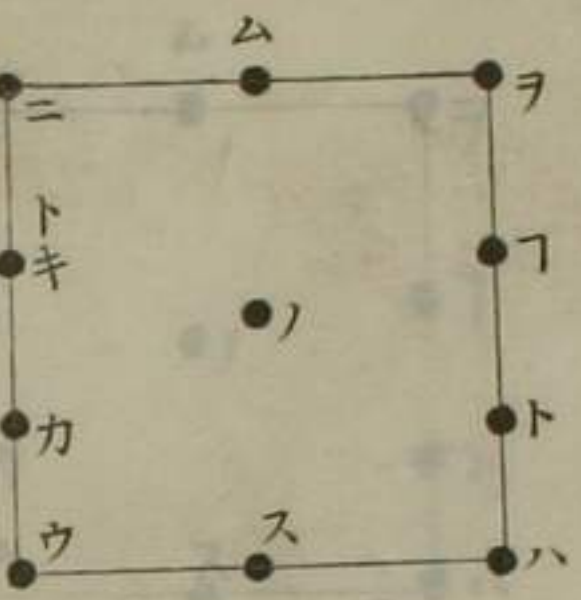
○ 延點
○ 點點
○ 切點
○ 一切

點圖部類ニ載スルモノ左ニ撮抄ス
於乎止點

經家



守重曰三十角アリ
餘畧之下倣之



紀傳

經傳

諸家點圖

- 喜多院點、奥福寺
- 東南院點、東大寺
- 圓堂點、仁和寺
- 中院點、高野所用
- 宝幢院點、比叡山所用
- 智證大師點、三井寺所用
- 西基點、全上
- 三空寺點、發菩提心寺用之
- 水尾點、円堂僧正用之
- 禪林寺點
- 遍照寺點
- 香隆寺點
- 淨光房點
- 順曉點
- 俗家點
- 俗點

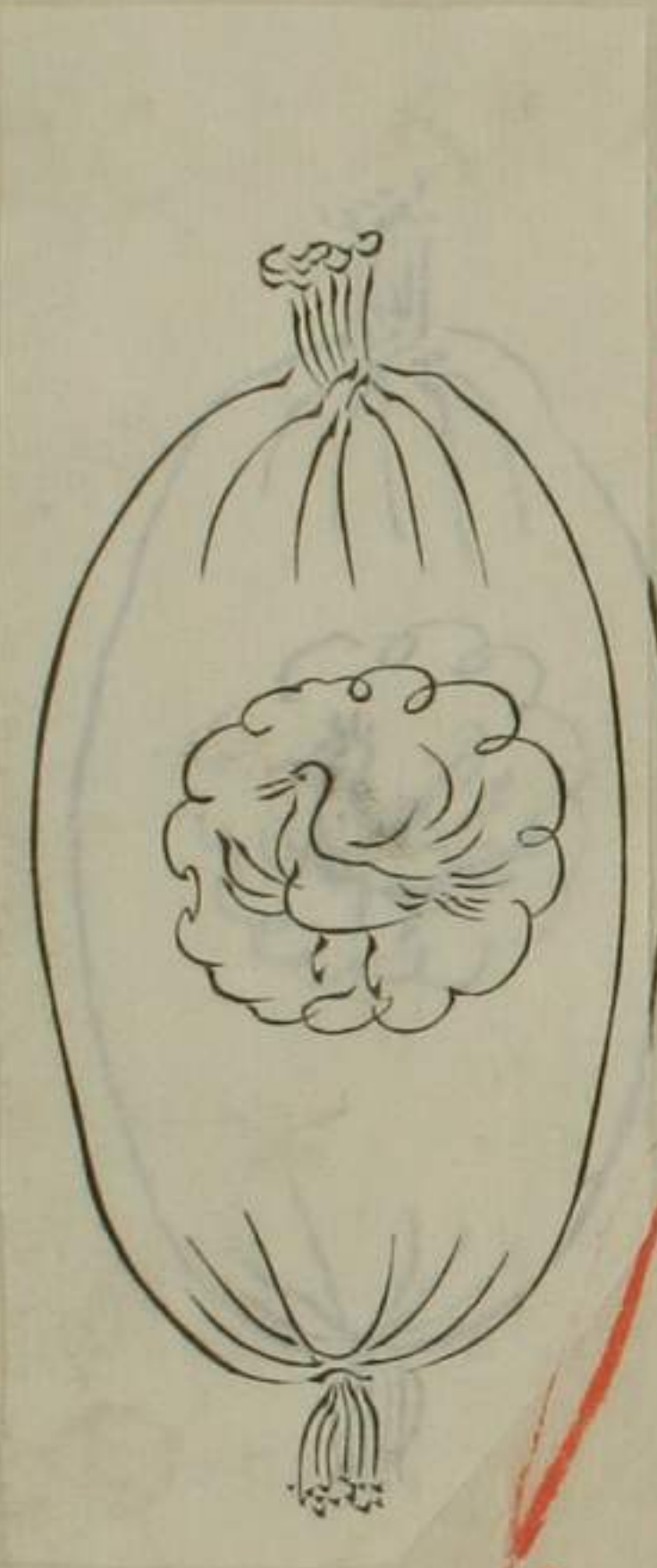
七代指ト云フ



金澤稱名寺古圖



七

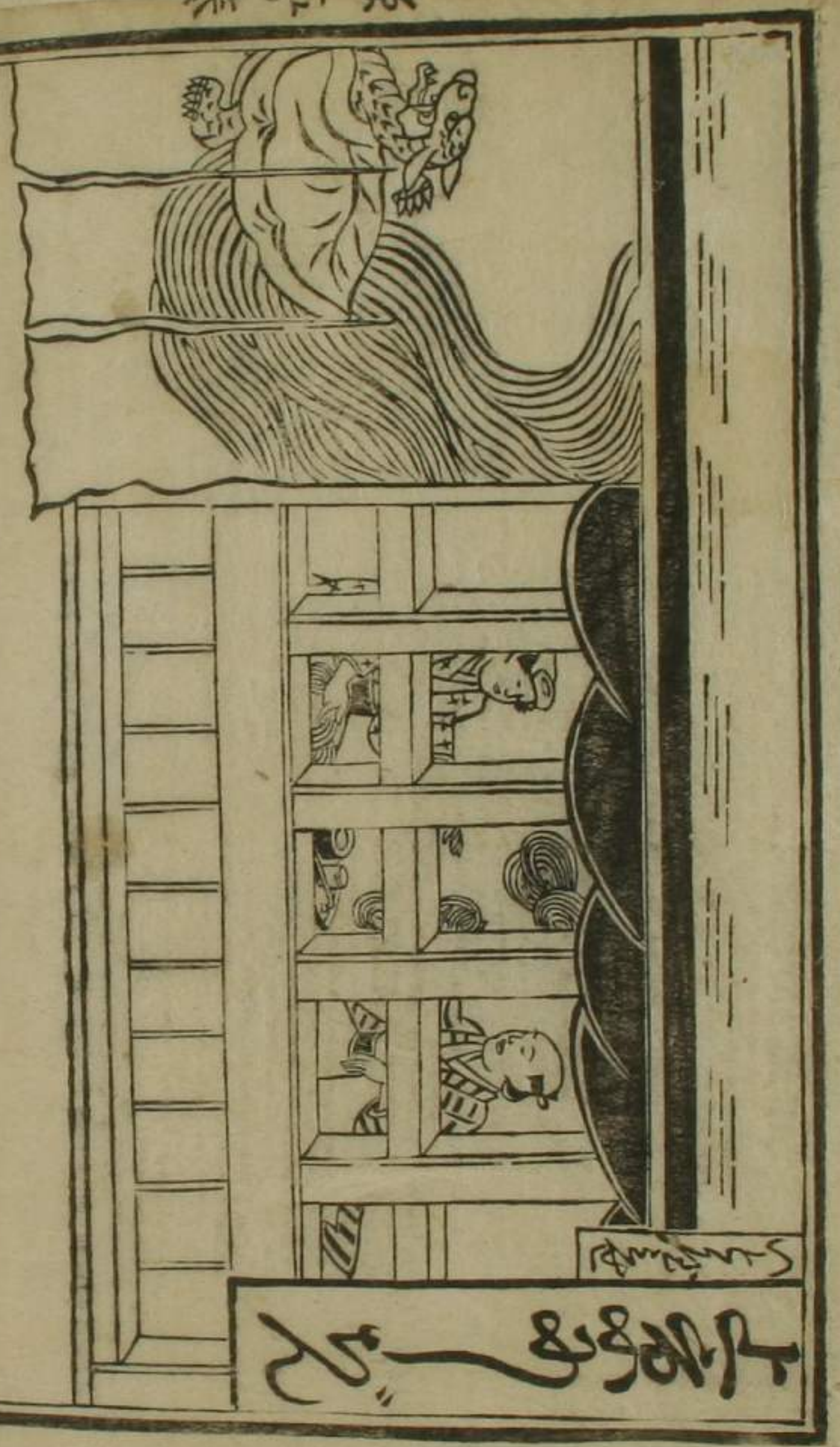


梅窓筆記 南都東大寺三藏室物置御守掛ト云モノアリ
 三國志曹公作款案卧祝書云加人佐隱囊柔軟不倚ト
 此隱囊ニヤアリケル易巻尾ニアリ

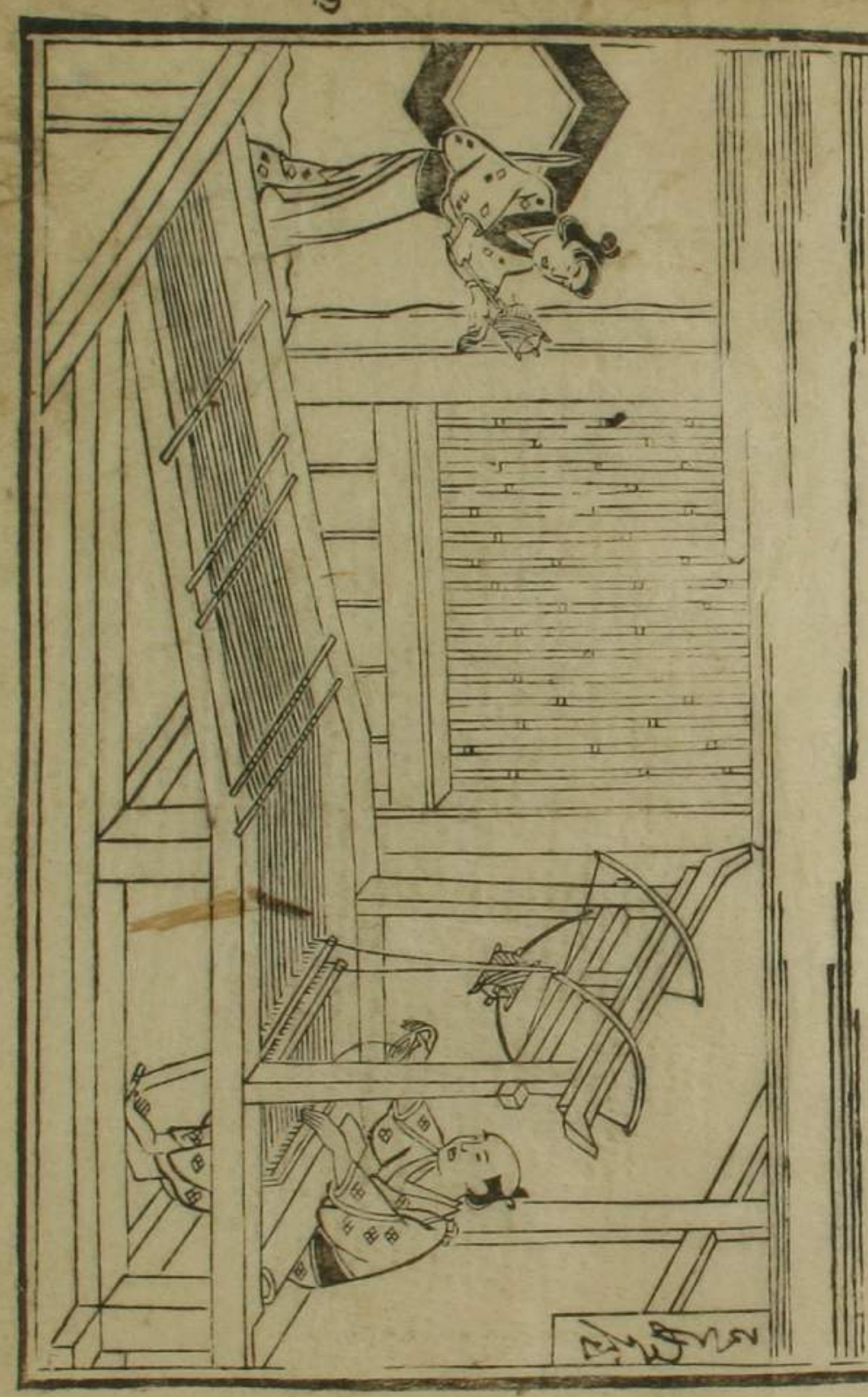
圖

六朝人佐

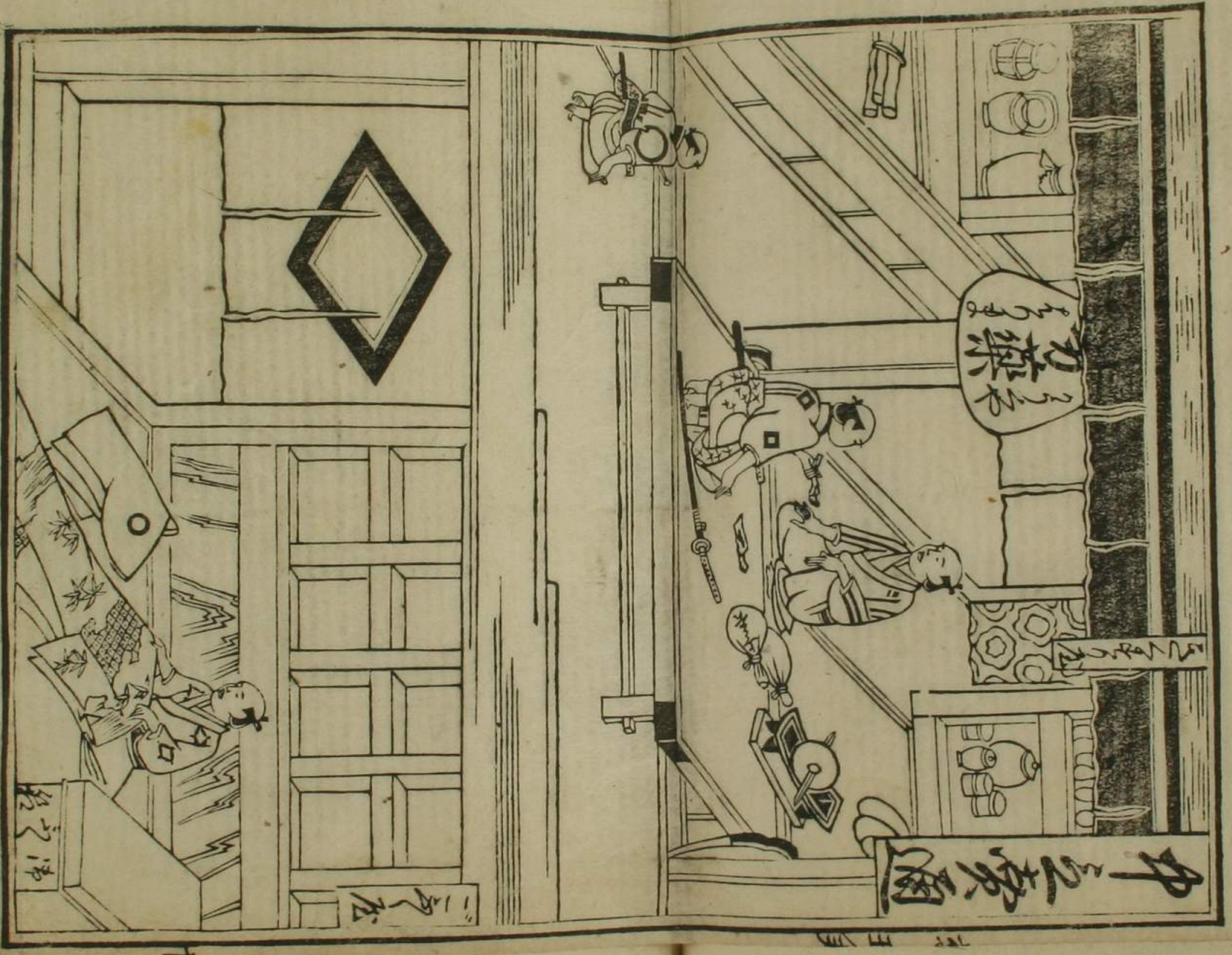
停



上野町



上野町



中三藥通

力藥

二一之松

松之

西親町

母一人の養ひの時此町に於て

本院の東一町に在りて此町に

今、中三番通に在りて此町に

町を以て名に爲し、格字に和の物也

○中三番 此町通也

○同三町也

○中三番 此町通也

○同三町也 此町通也

○名に爲し 此町通也

○此町に於て 此町通也

○名に爲し 此町通也

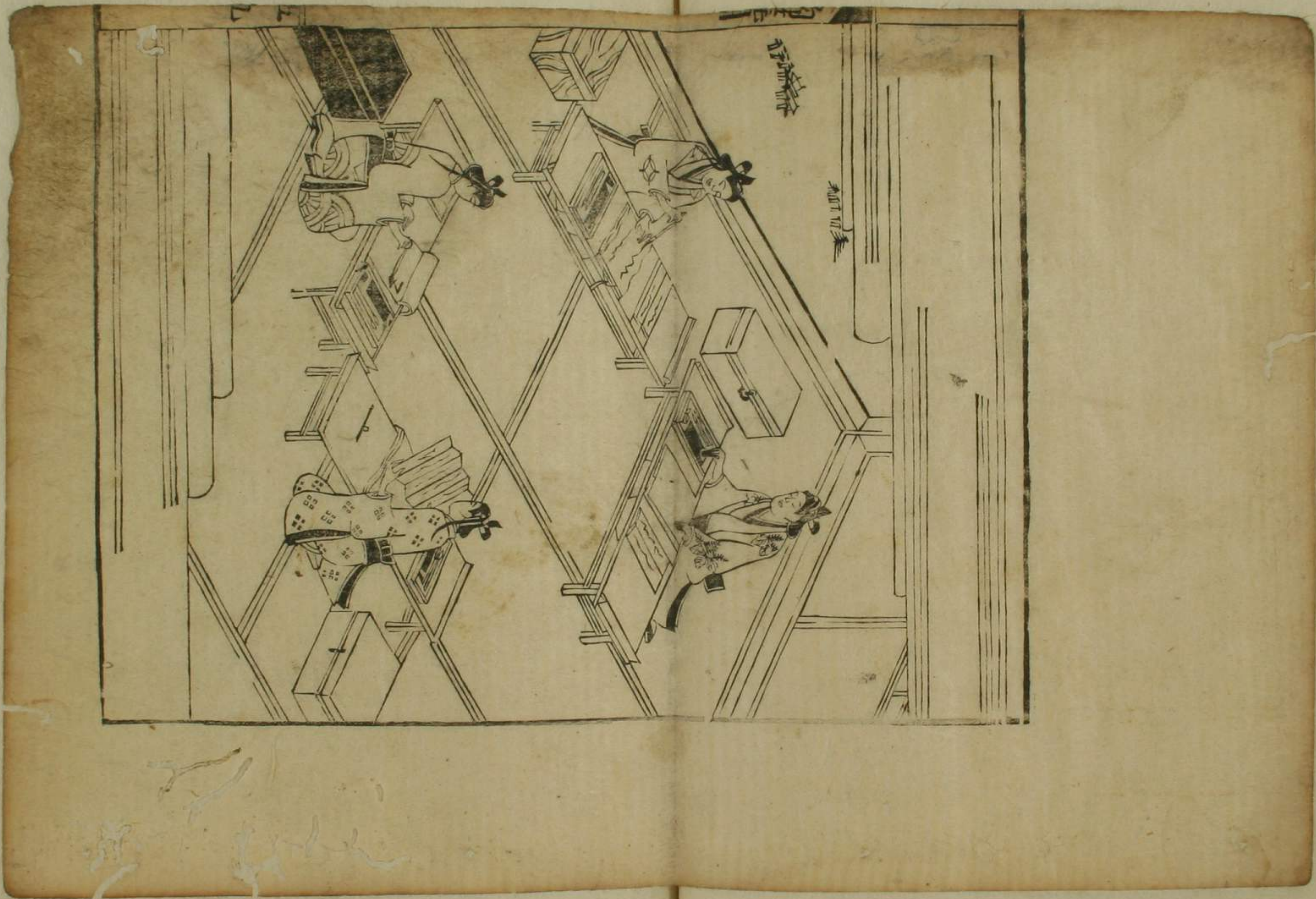
○此町に於て 此町通也

○名に爲し 此町通也

○名に爲し 此町通也

○此町に於て 此町通也

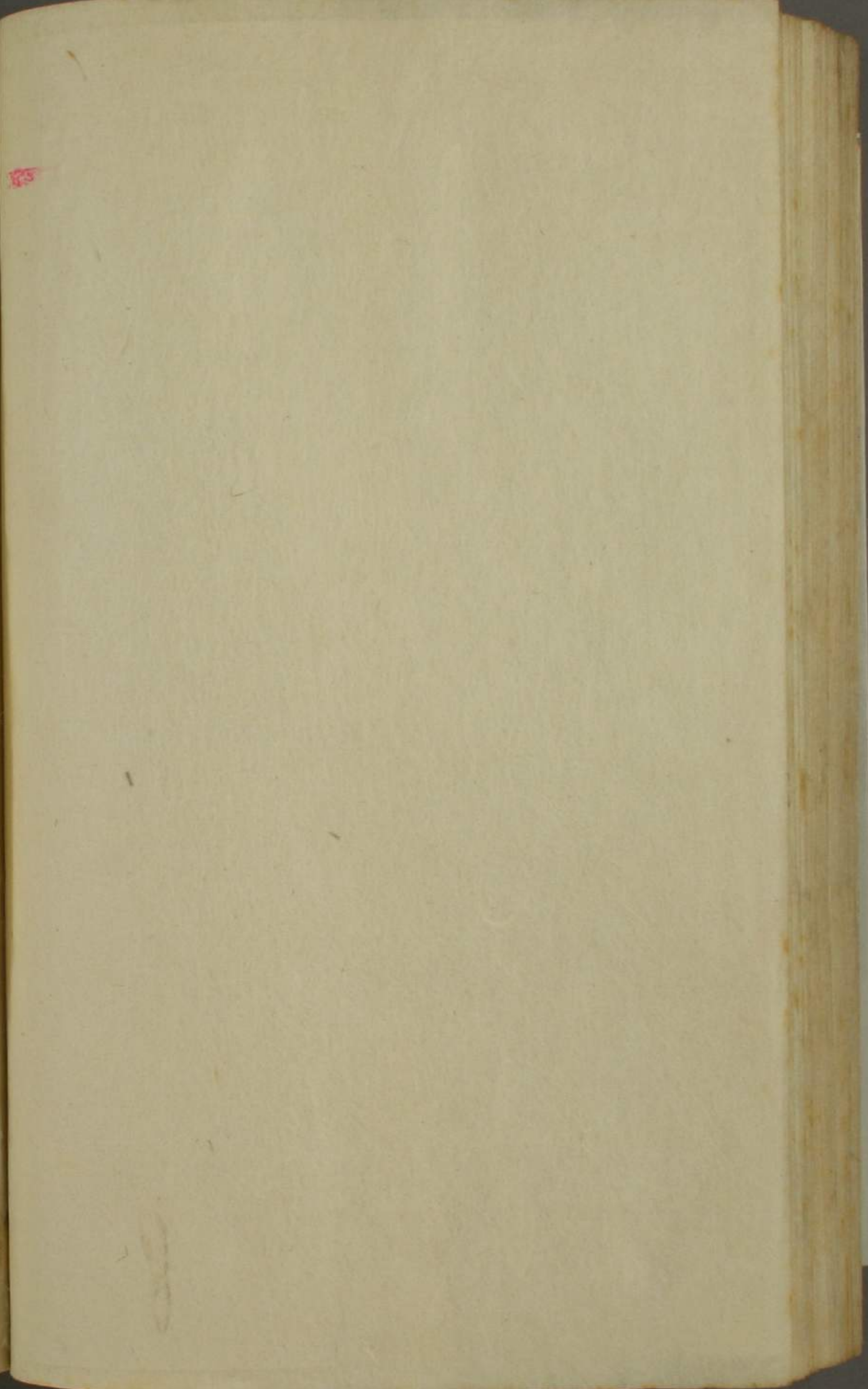
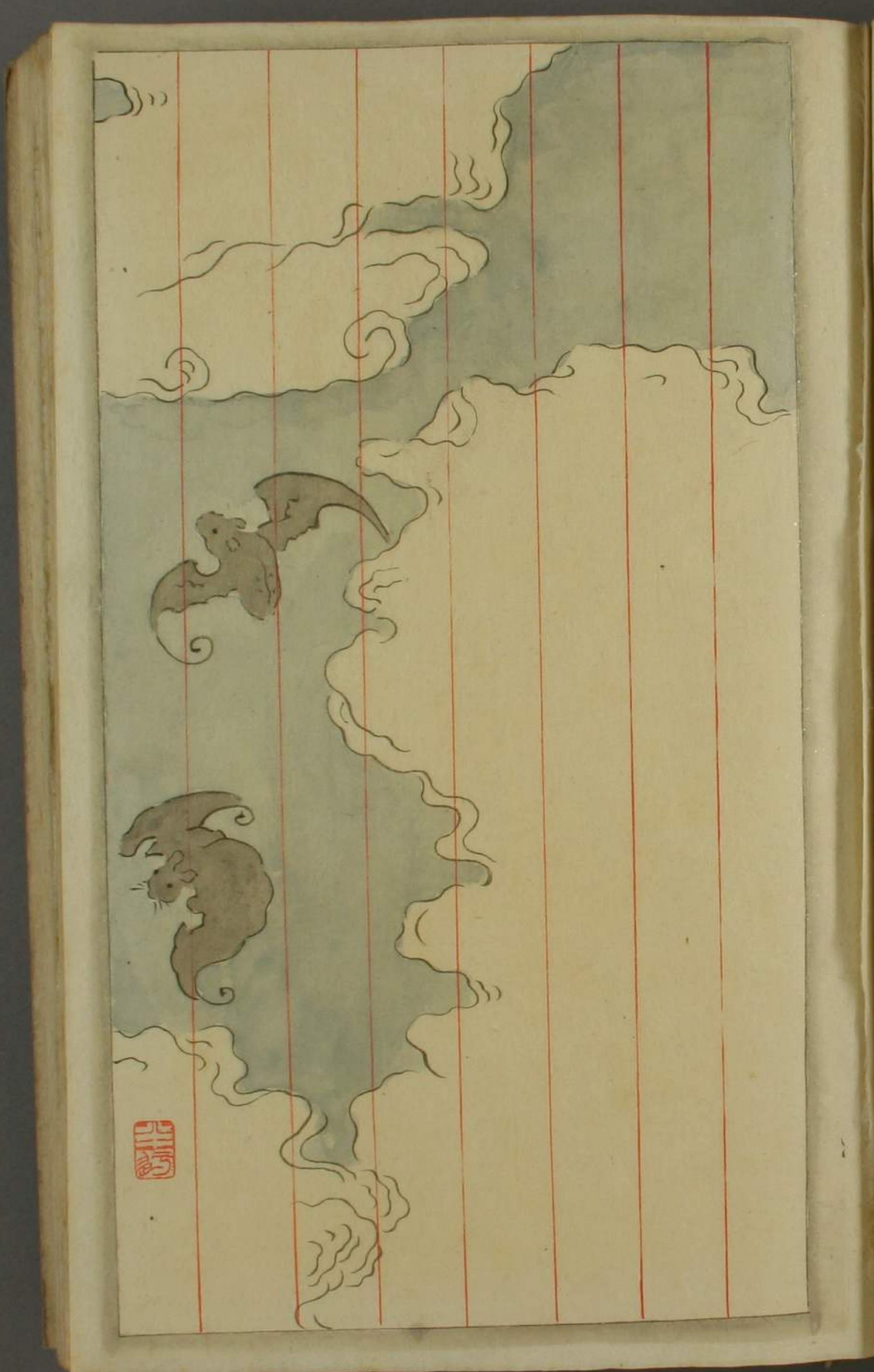
右に記す由縁に因りて



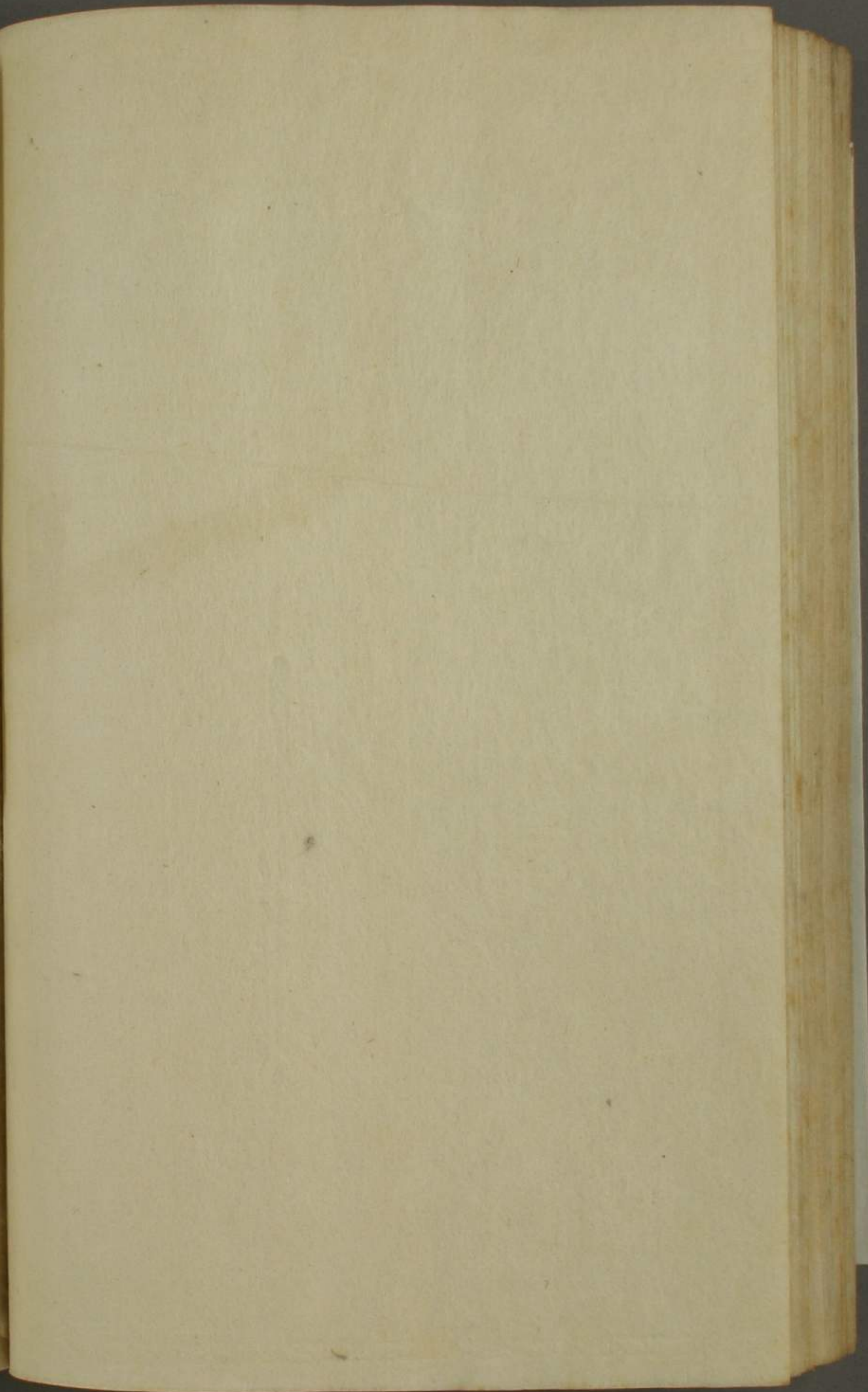
用書
長者のきこふはもつとわぐ一か指て其自
の病にせしむるまどろしき事なればいかに
病をせしむるもいかにせしむるもいかに
病に感づるものいかにせしむるもいかに
いかに九歳より十二のやうの事なればいかに
いかにこの年の事なればいかにせしむるも
いかにいかにいかにいかにいかにいかに
いかにいかにいかにいかにいかにいかに
いかにいかにいかにいかにいかにいかに
いかにいかにいかにいかにいかにいかに



三十五

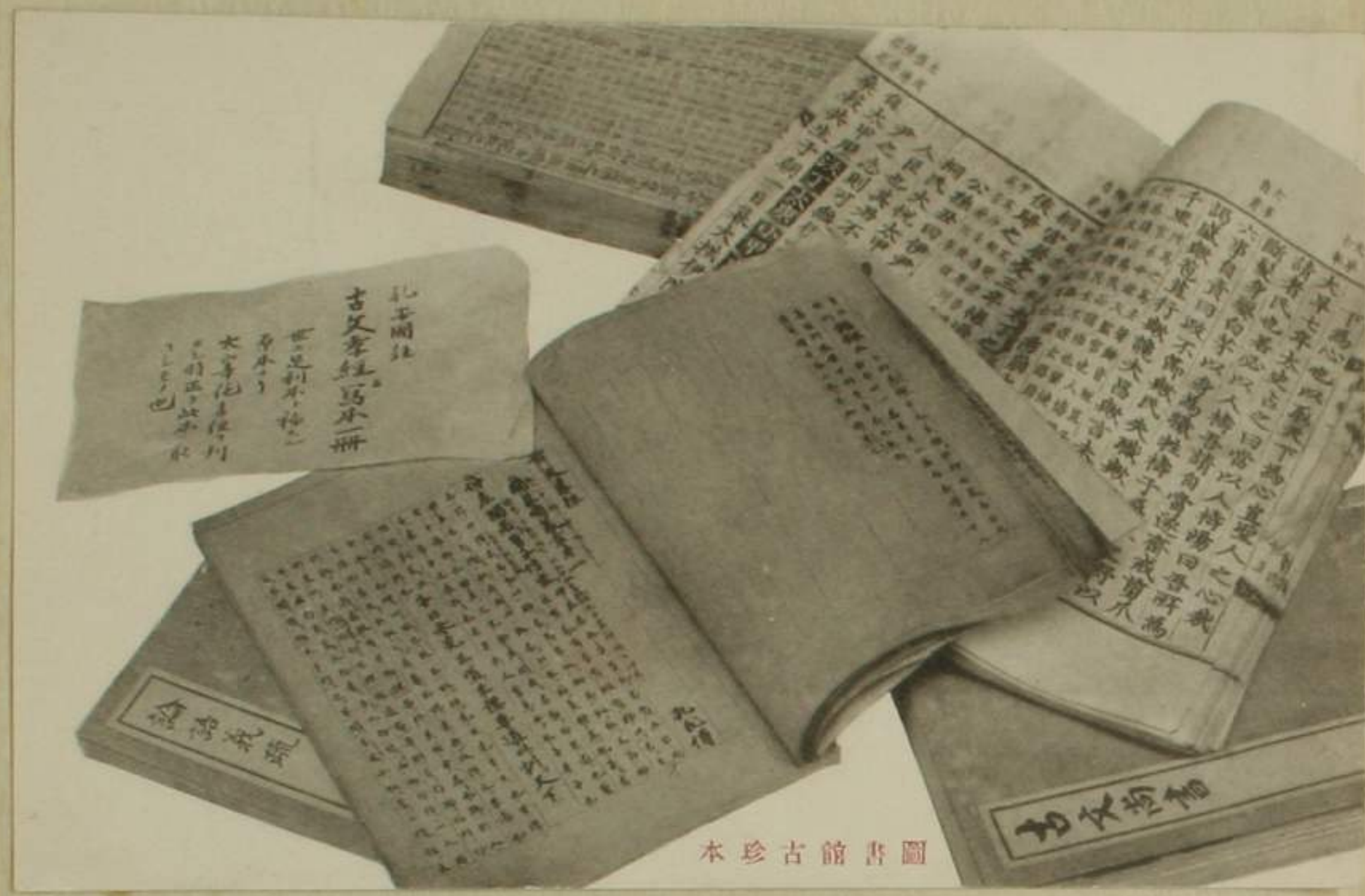


Handwritten Chinese characters in a vertical column, likely a list or index. The characters are arranged in a regular, repeating pattern. The characters are: 一, 二, 三, 四, 五, 六, 七, 八, 九, 十, 十一, 十二, 十三, 十四, 十五, 十六, 十七, 十八, 十九, 二十, 二十一, 二十二, 二十三, 二十四, 二十五, 二十六, 二十七, 二十八, 二十九, 三十, 三十一, 三十二, 三十三, 三十四, 三十五, 三十六, 三十七, 三十八, 三十九, 四十, 四十一, 四十二, 四十三, 四十四, 四十五, 四十六, 四十七, 四十八, 四十九, 五十, 五十一, 五十二, 五十三, 五十四, 五十五, 五十六, 五十七, 五十八, 五十九, 六十, 六十一, 六十二, 六十三, 六十四, 六十五, 六十六, 六十七, 六十八, 六十九, 七十, 七十一, 七十二, 七十三, 七十四, 七十五, 七十六, 七十七, 七十八, 七十九, 八十, 八十一, 八十二, 八十三, 八十四, 八十五, 八十六, 八十七, 八十八, 八十九, 九十, 九十一, 九十二, 九十三, 九十四, 九十五, 九十六, 九十七, 九十八, 九十九, 一百.



已者時未竟則凡已級相有一難辨者又本國乃可知有祖久前文
或前要有此日不負有弟字又未有弟者凡者去謂假令又後之意也
國更舉主子此子則為已舉級有弟已至云方計已之生不及此觀之存司
不親者此類未也之在前已生則凡已又謂是身者諸人宜乎已創
智無誤言同王義而一弟有長字次云生不相見思以不能已思則外
不親者在宜已不能親已相不能親已則凡已知已四謂是已之生
乃力一是可知假謂是弟為故人之學身以與親則作子早不相於及
則力生者次意以言事是奇明不見不能親已不妨即日則力有思
謂子生在外者已之他故在堂則不也木及相存皆早且今且其
養服身月已過乃同之方之亦已則善者不有非帶之在在之亦不香
之意且時則親親體心善凡則凡 左傳傳世三季至無滿昌春即性如
善凡也時則京謀至凡則凡人經而成人弟能無謀能改子服注曰見
不慮已位情作規字耶云讀如無凡則規是規字之作規已凡久規其
個皆規月服注服周有六門規廣義云古者規或作規字已規謂也
四謂規規是已 規者規身服木相善言是也 規規已規如方規
牛食與服木相善言已謂不相善為規者此服眼已規今更服其為規
之眼已而問曰若此已上過而本國未有子今若規耶主此子為規已過
可更規字名曰全論非過者司人若規令本國過者此子為規已
何以故六其不事台管規已 傳而規中規者規上 此句無規乃中管
古規以加不規且上四有善本六而六而傳在規上切者則凡規一有清重
規已 曾容規在善者本不而者已空規規切不規善會子則曰六知不規則
牛善規善善服已規乃中言已此句規規在善者善規字則善
都引此句表亦此者則以此句在規規之六不負孤在規規中其
已則若此情又凡中在規規者則凡規已

後服心字平臥義舉卷九



東洋著作

東洋著作
 此種書籍係由東洋各國著名學者所著其內容豐富且多為珍貴之史料
 凡欲購者請向本館洽詢可也
 民國十四年一月







月二年一十四治明 忌回三廿生先粹野小洋東

Calligraphic text on a dark rectangular background, likely a painting or a mounted scroll. The text is written in vertical columns from right to left:

- Column 1 (rightmost): 大... 何... 山
- Column 2: 秋... 山
- Column 3: 山... 山
- Column 4: 山... 山
- Column 5 (leftmost): 山... 山



新編
細川

雨のけ。

壽翁歳

東京山口物か作事か

新編

細川伝正志青

振市山七十五

けぬれむとふみけり吸きくさのこの何たれ
 船をもちてはこゝろなり安はくさすも
 ちかたりはさかざりの海に友とて海老さ
 腰をのゝあまび老わの美うらつ
 君をいふはむもさす
 おいも海代のあめ
 かくては代あまを
 後



平


魚之文

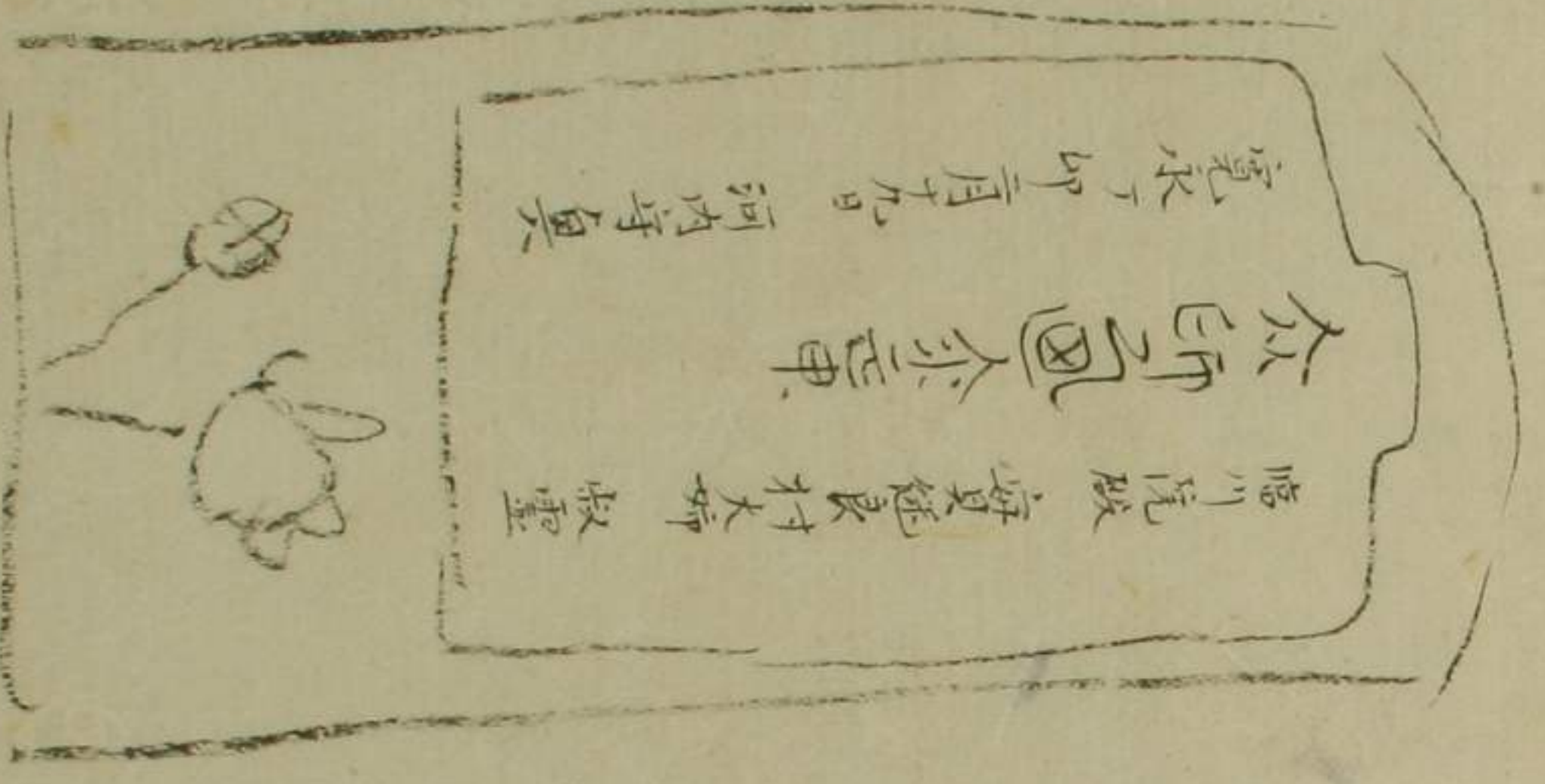
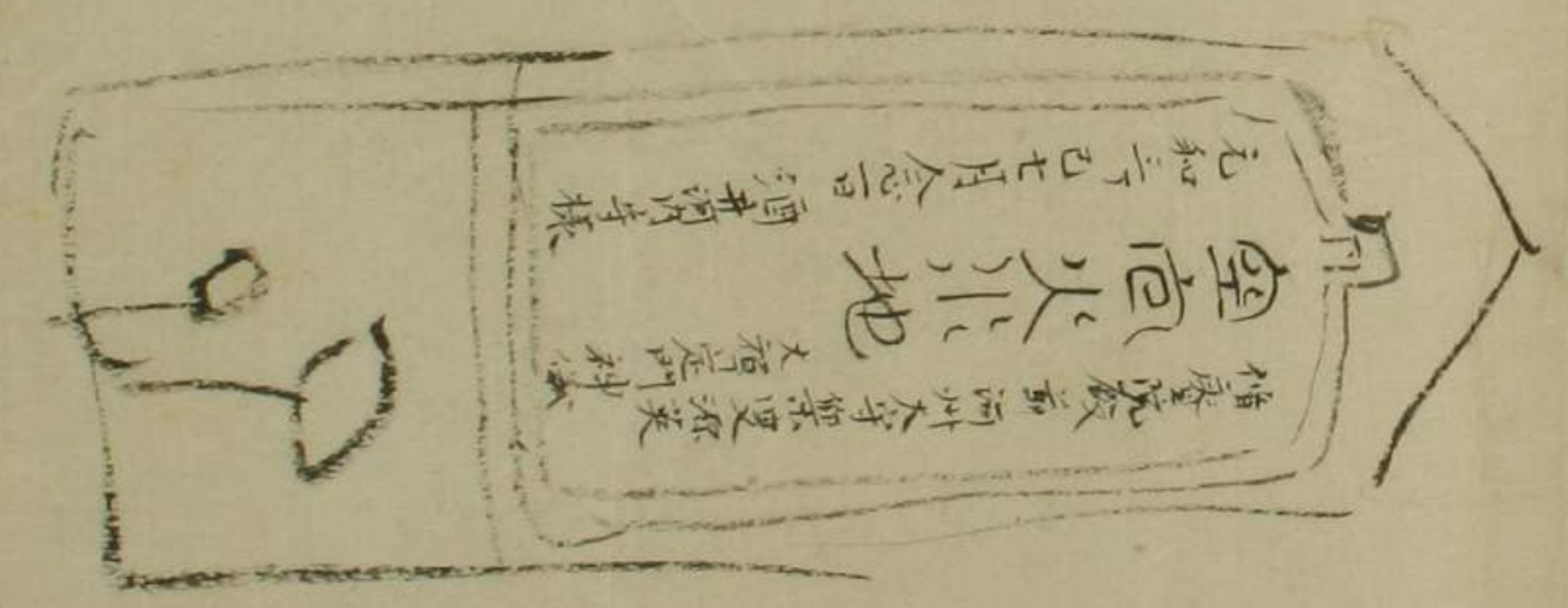
東京 山口物の作
 新原 市山七十五
 細糸 振

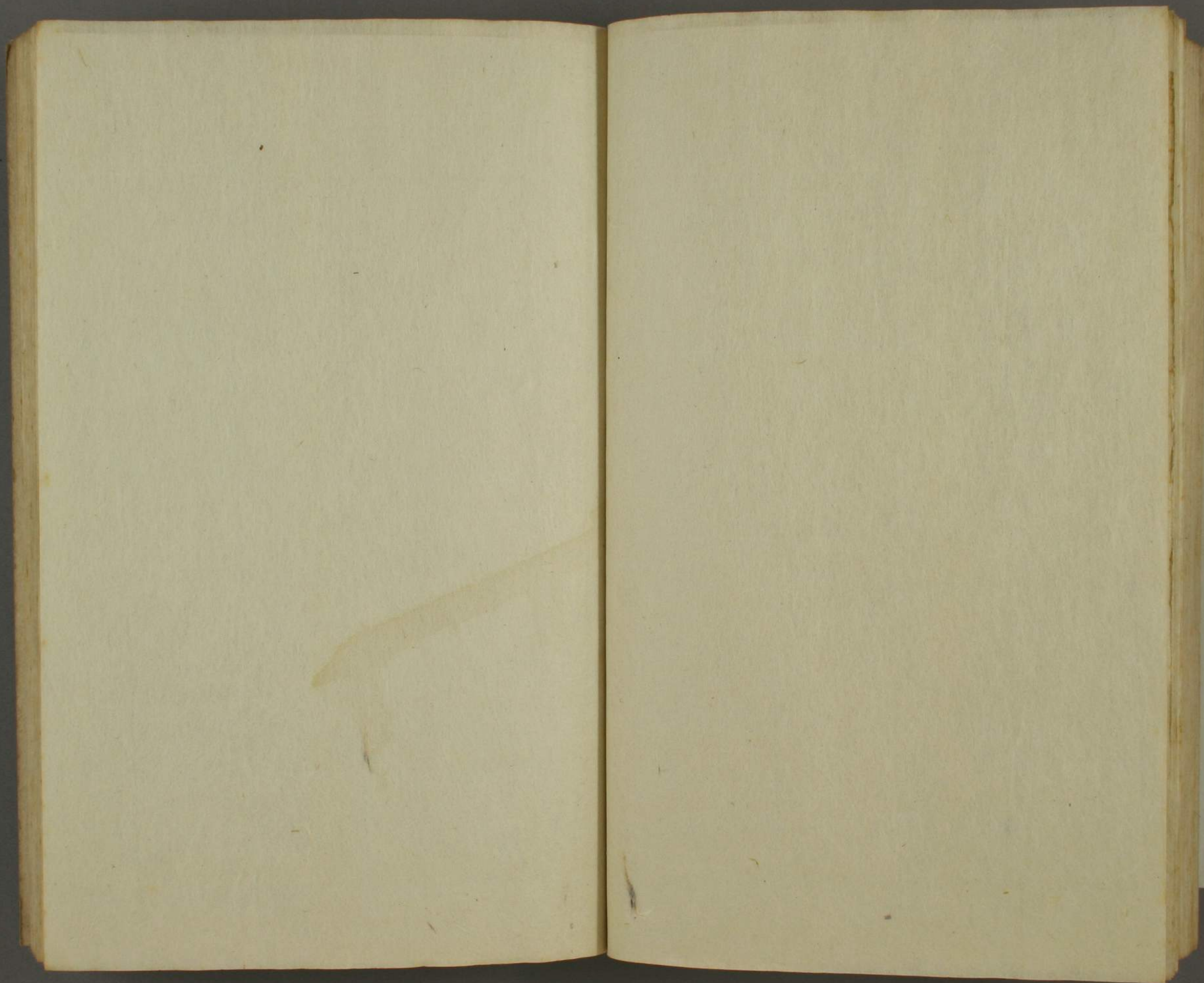
新原市山七十五
 魚之文のふりど
 多のうらやまの
 神のひらけゆ〜
 た〜

両
 魚

魚之文

上无寺橋就沙院是字寺中
 聖井 碑禁後 祖克有碑 偏寫





此大の取名人曰十代元明天皇此御廟子

あはれ此帝は此御宇まはし隅蓋舟

此世末より新なるしとそ俗ま七と云

此ふ世に凡人の刻まぬと云ふ

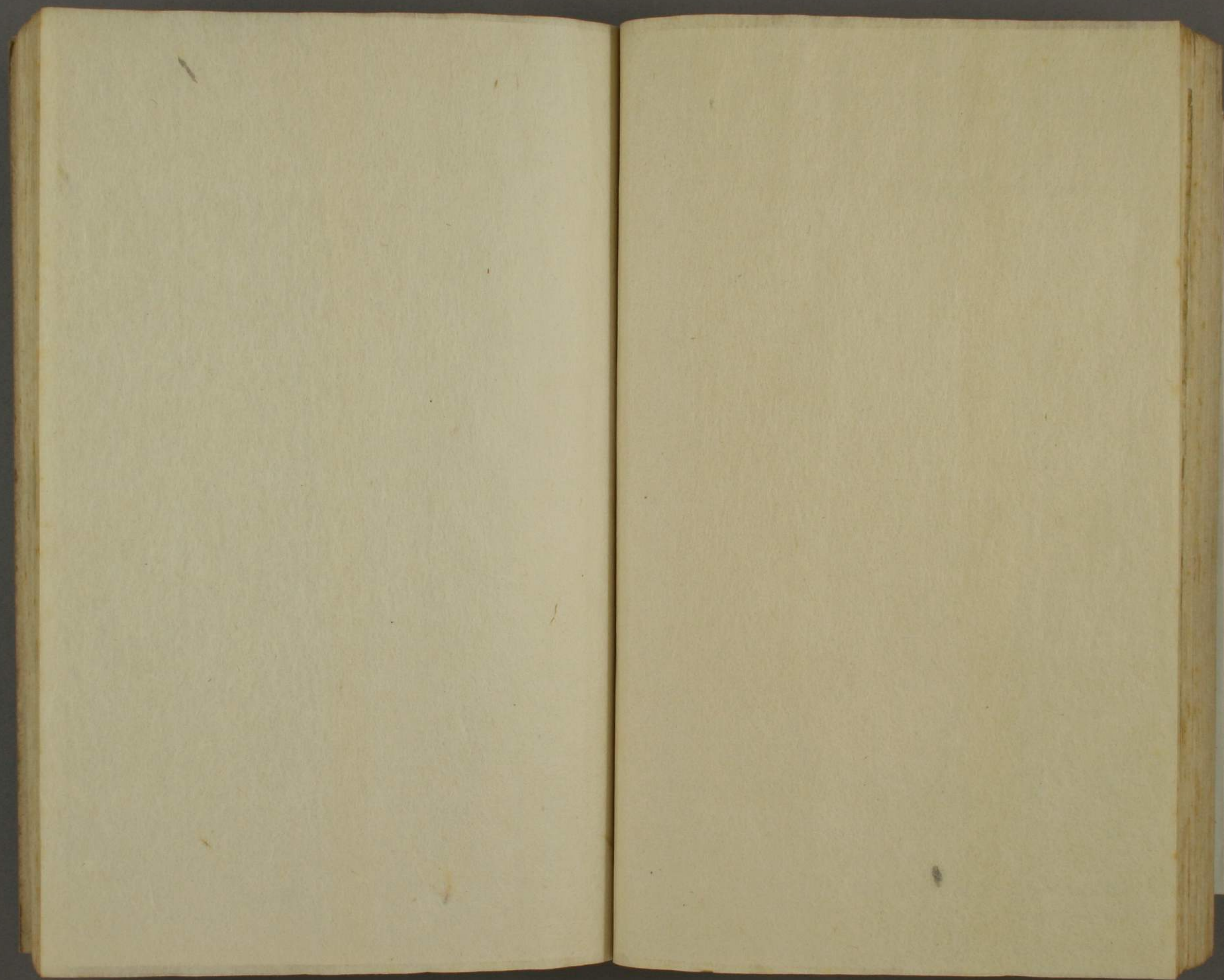
大和國橿原

北



此は此の神を石に刻してありてありしなり
別意の神なりは將軍の御像なり





此^{キセル}煙管ノ指^サシ之下ノ^カ口^カノ^カ首^カヲ入レ上ノ方ハ紐付ニテ吸口ノ方ヲ
 其紐ニテ括リ持タセル之古クモテ甚ク愛玩ニタリ
 哥ハ世方ノ^カき^カ紙^カ燭^カリハ^カカ^カニ^カハ^カレ^カル^カ
 酒ハ^カカ^カル^カ





加々子魚一尾上
六月御守



大相模 星取鏡 司 木村守村 与庄伊止 太之之 夫助助郎 木村守村 村守 伊勢海太夫 藤島分 甚忠	朝霧 山 稻川 島川 左齋 常陸	梅谷 荒虎 神崎 達閑 忍川 智恵	鯨海 密 大淀 高塚 茅川 手岩	武蔵 佐山 長山 朝平 大戸 谷川	浦風 清澤 藤川 稲川 鰐澤 淀川	若嶋 澤波 上沢 渡次 藤 藤 越	境 勝浦 藤川 巖 白 修
--	---------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	-------------------------------------	------------------------------

阿武奈

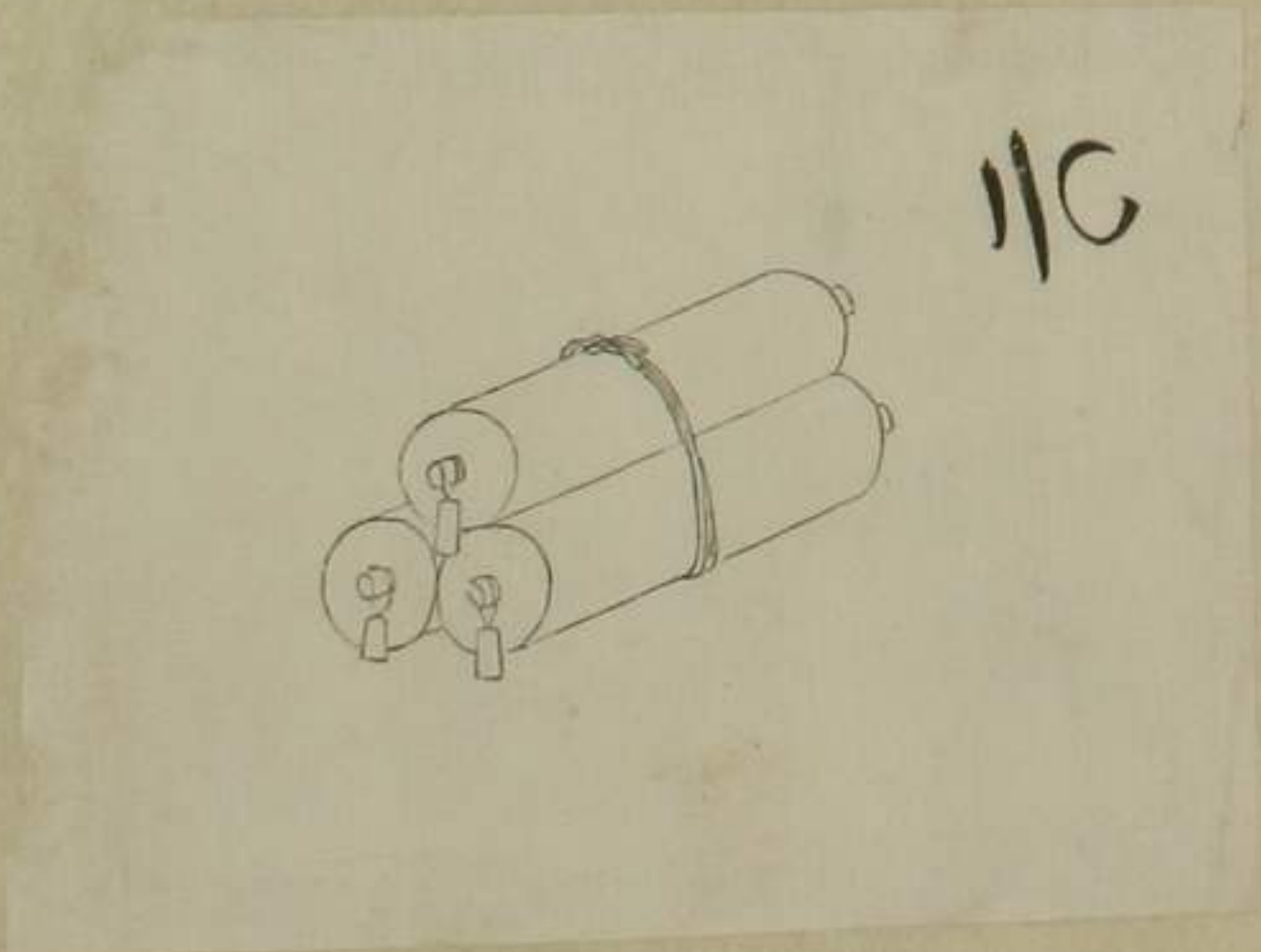
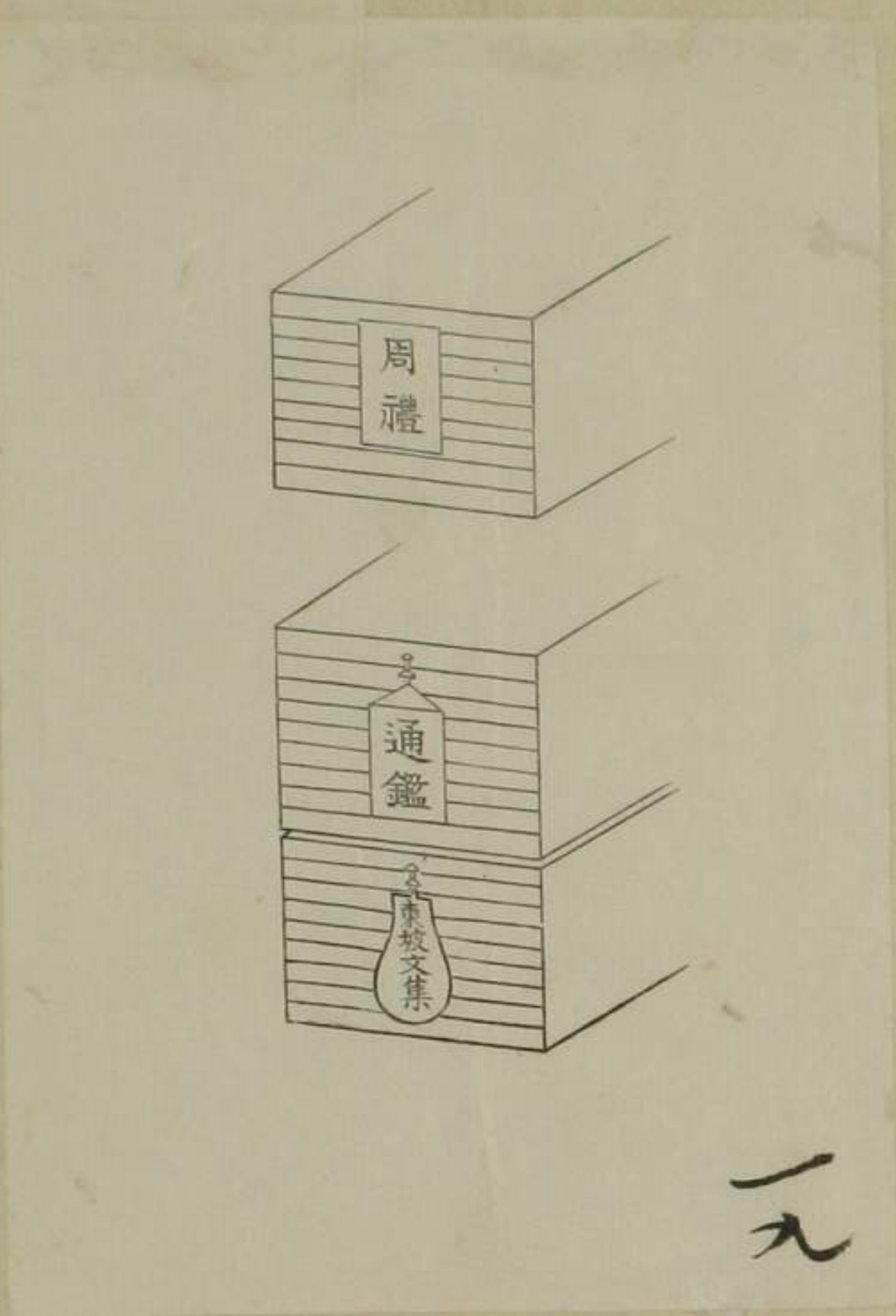
第一大學三小區香川町
二番地 福屋出版人

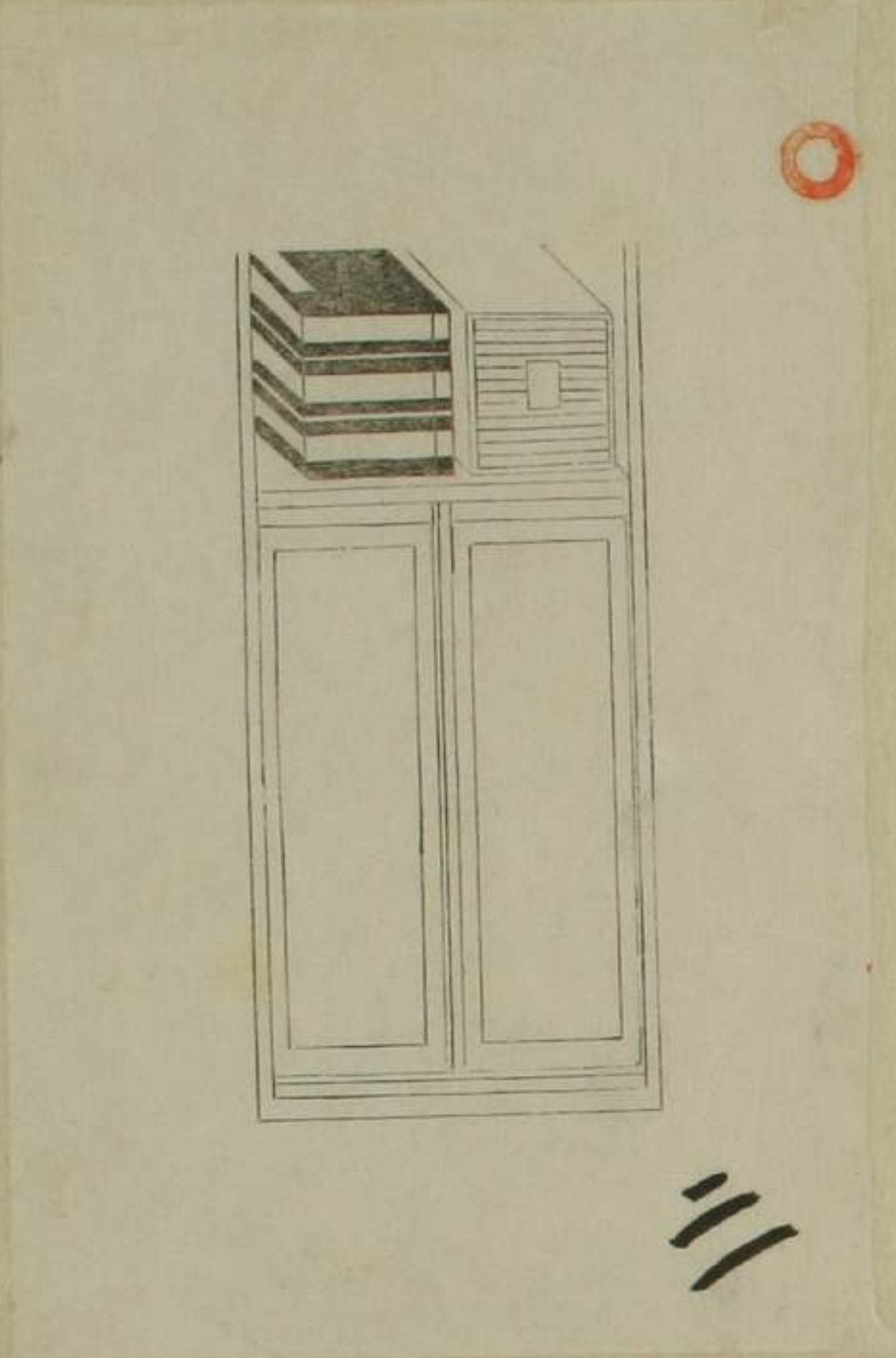
松本平吉

明末

屈回十六日出版

合印・乃千・アツリ

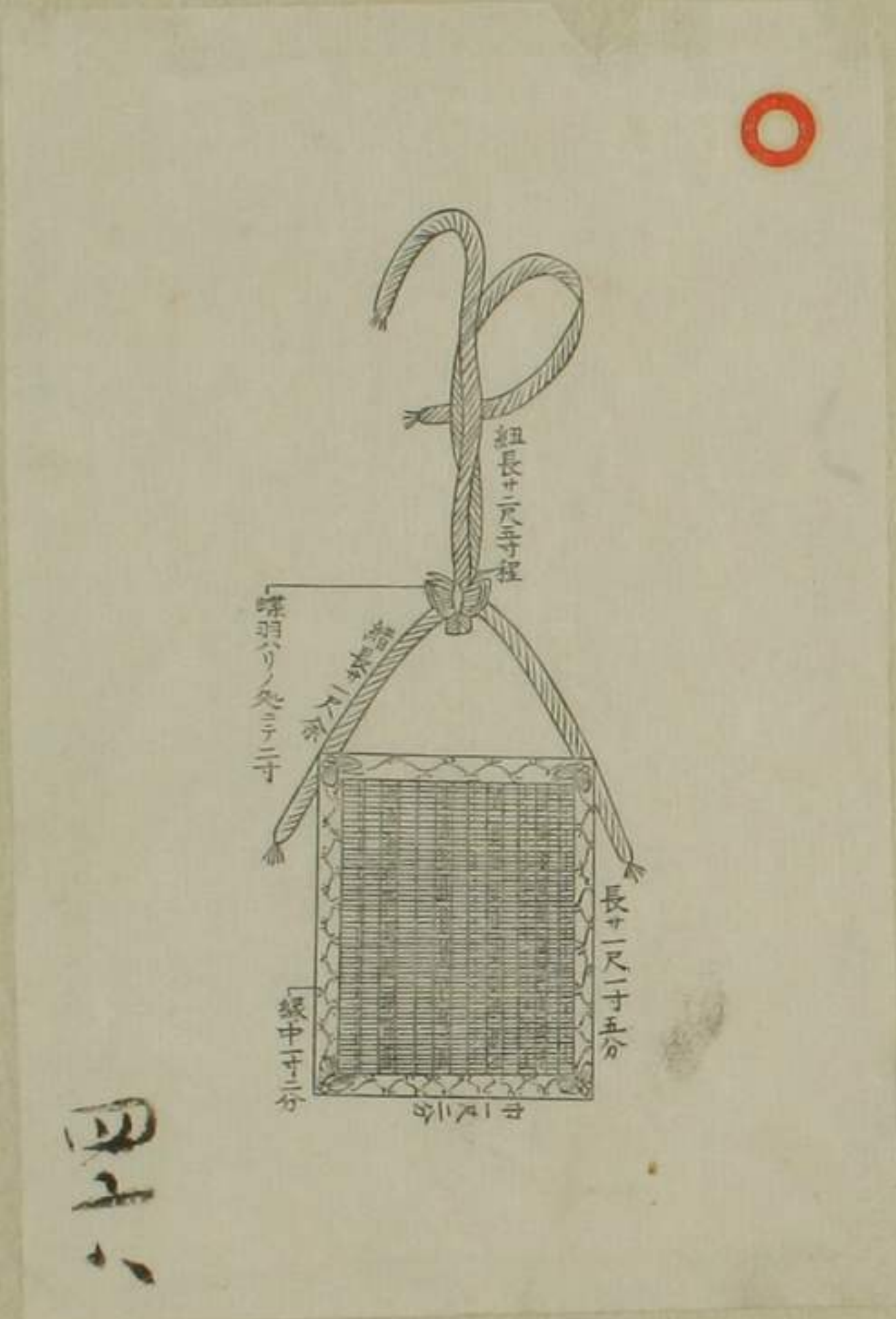




三



四



四六



圖左ノゴトシ

高雄山後白河院所賜
 紺紙全泥一切經帙篋ノ牙籤ノ

又本置道ノ

大般若經
第一卷

高雄山後白河院所賜
紺紙金泥一切經帙篋牙籤ノ
圖左ノゴトシ

以紫檀造之

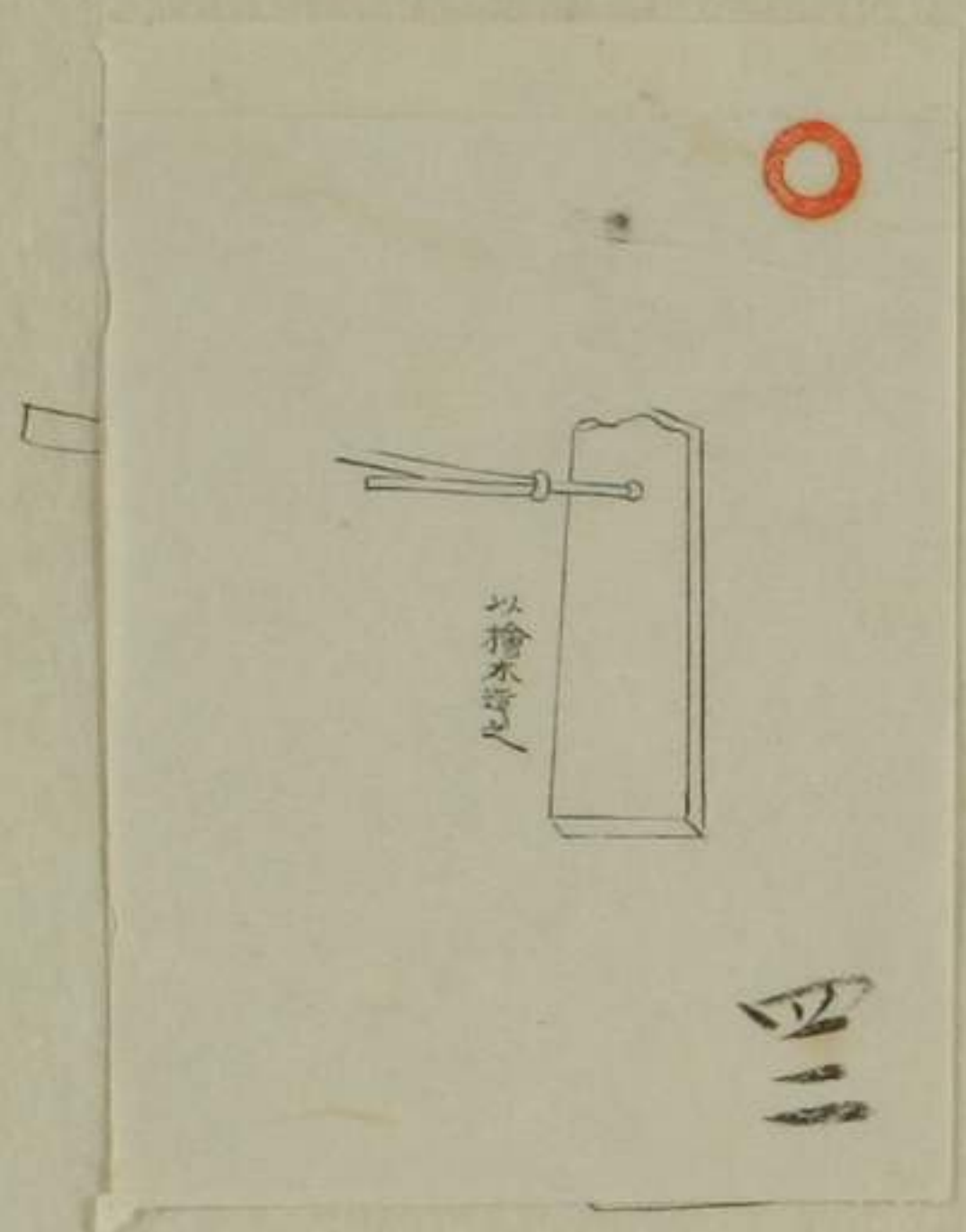
表

大般若經

裏

第一卷

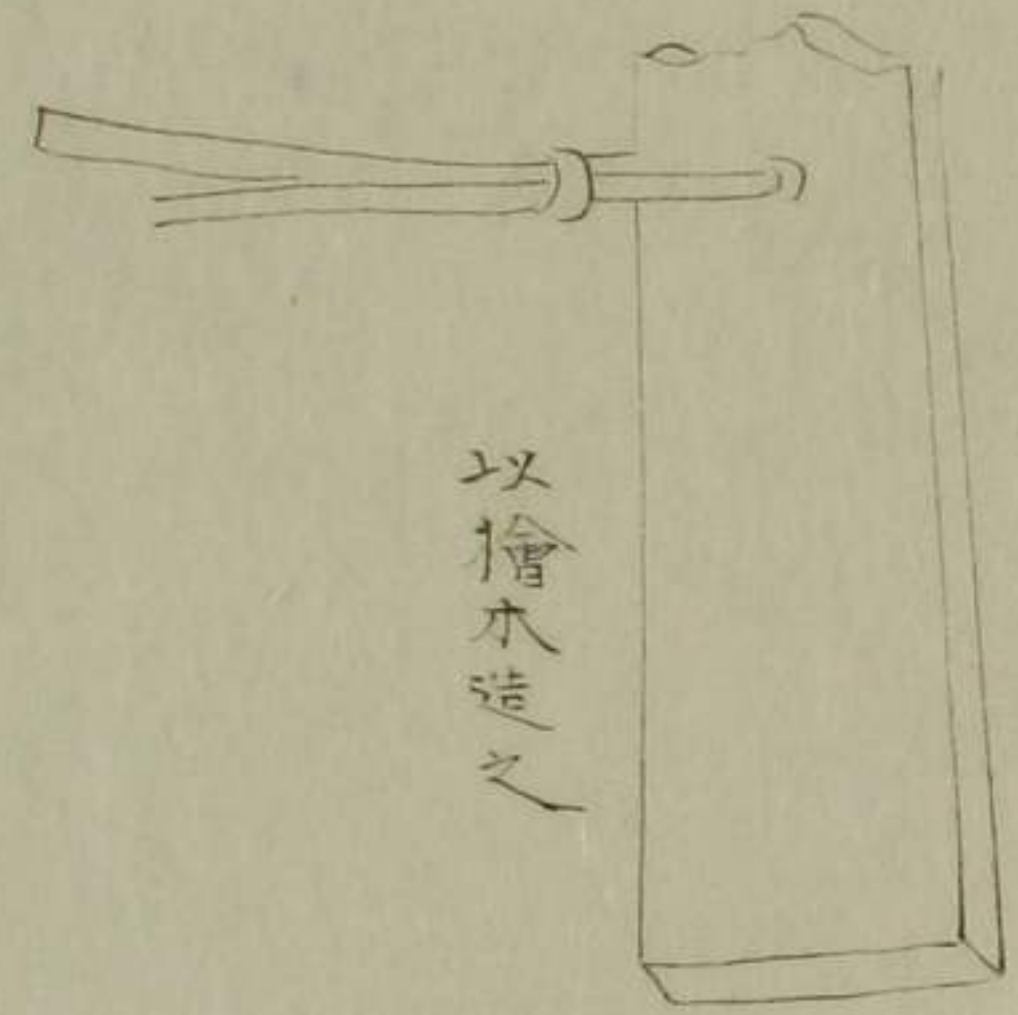
又東寺一切經ニカクルトコロノ籤ノ圖



東大寺ニ所藏籤ノ畧左ノコトシ



東大寺ニ所藏籙ノ畠左ノコトシ

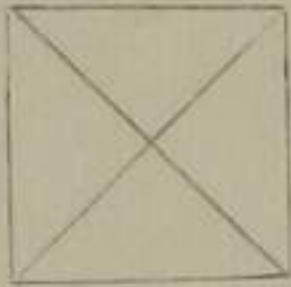


以檜木造之

又東寺一切經ニカクルトコロノ籙ノ圖

御燈田

四四



大佛殿

八三十一 本口六分

四三

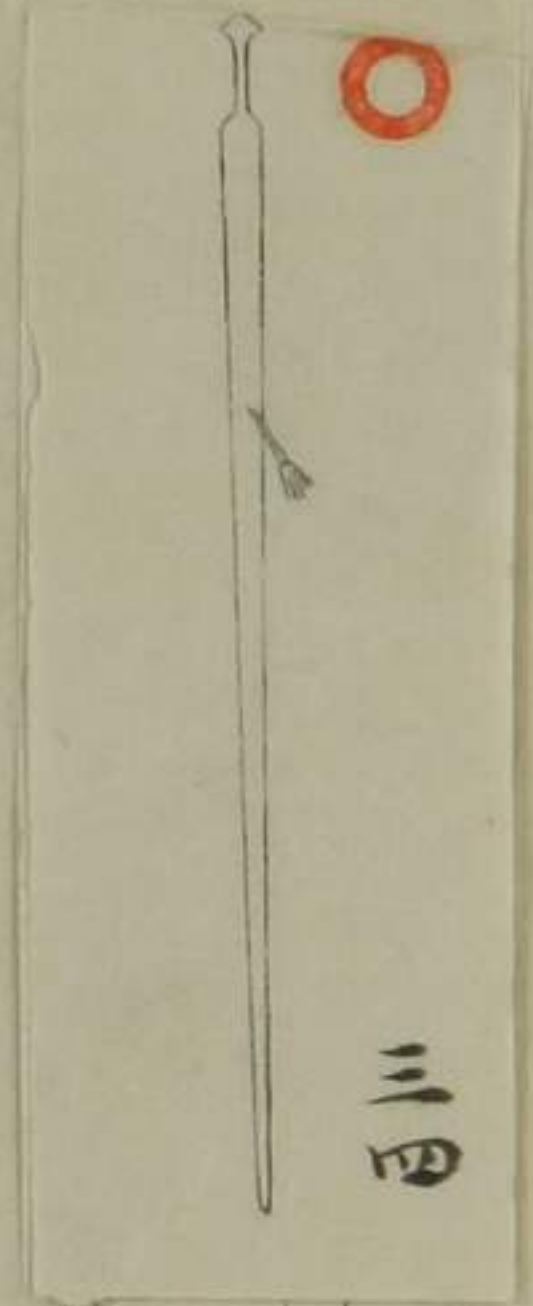
二月日

永仁二

四五

高过象角笔

长八寸花蒂以角造长寸自至孔三寸



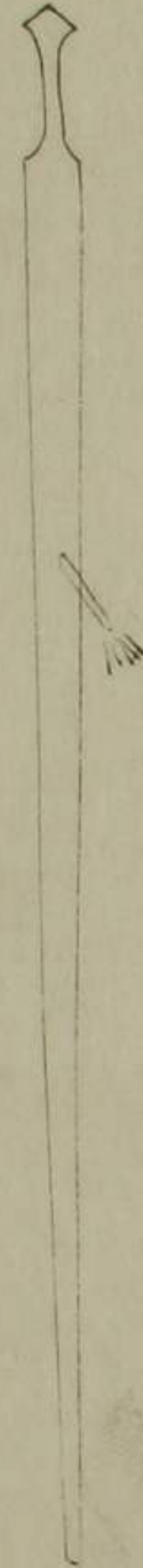
三四

木以紫祖黑桐類造之

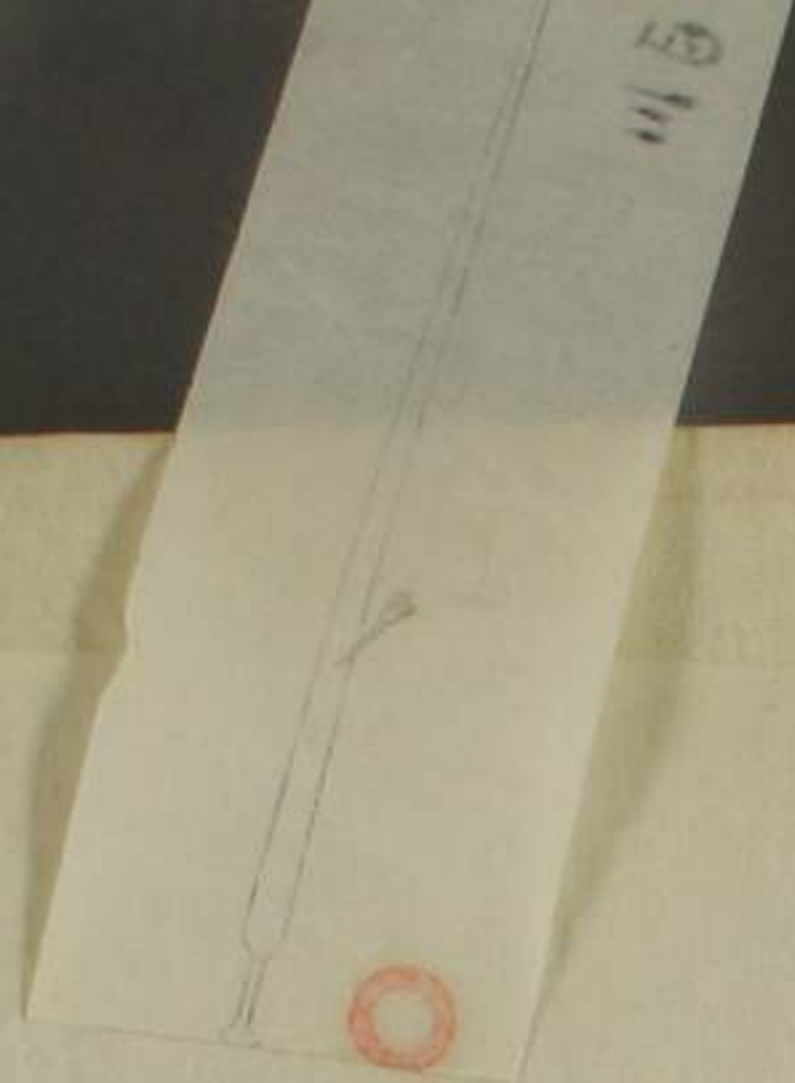
散亦流長四寸

高过象角笔

长八寸花蒂以角造长寸自至孔三寸



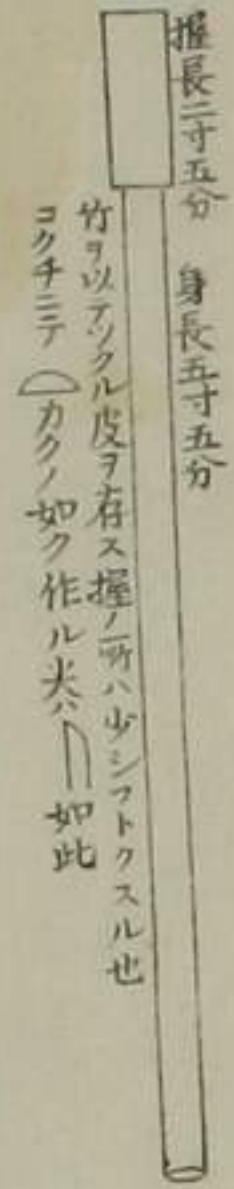
流槓用白紫散亦流长四寸
木以紫祖黑桐槓造之



清原家丁馬式

明經道持流所用大小二枚長尺二寸
宋奧之制也詳下用八寸有

三五



クスル
如此

三字下

清原角筆

以骨牙造及長寸流其模用仁白等

三六



清原家丁馬式

明經道持流所用大小二枚長尺二寸
兼輿之制也詳下用八寸有

握長三寸

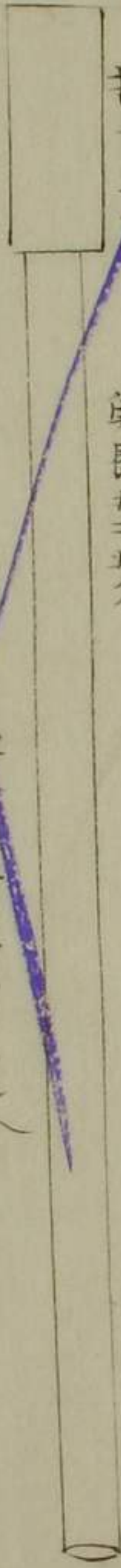
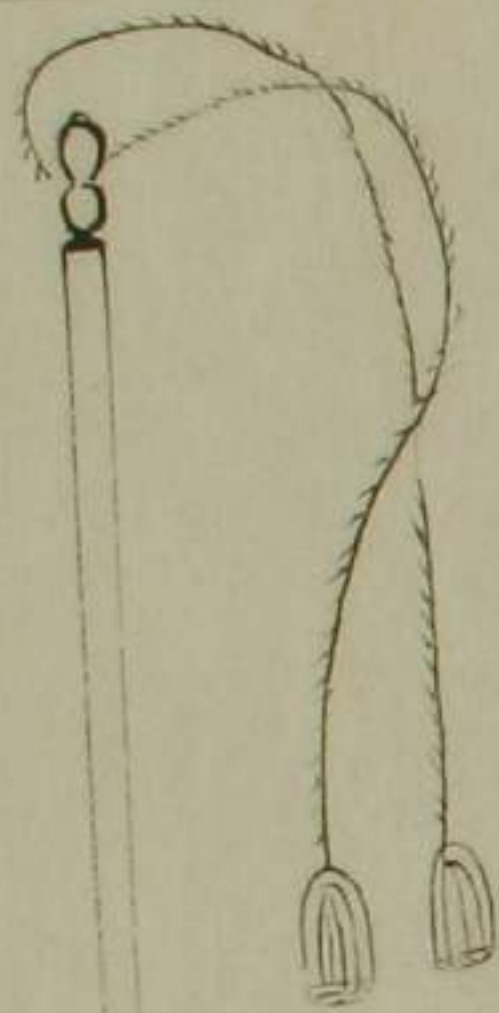
身長九寸五分

ウラ以テツクル皮ニ存ス極新ハ少クフトクスル
コクキニテ カクノ如ク作ル也 如此

三文字下

清原角筆

以骨牙造五長寸流其模用仁白等



角筆 附檢

俗ニ云字突皇太子親王御讀書始ニ必用ヒラル、所ノ物ナリ

千位武州ノ海道ノ方言ニヨミナクト云讀軸唐土ニ籟ト云玉堂記実

見ヘタリ見上角筆ノ名ハシメテ江家次第ニ見ヘタリ次第卷之十七

御書始ノ余ニ立書案其上置御註孝經御點回角筆

等云然トモソノ制得テ考カヘカラス按ニ文永十年六月十香

春宮御書始任後々ノ記ニ置御註孝經照回角筆

等十分注學士基長朝臣調進之角筆但紫白和交

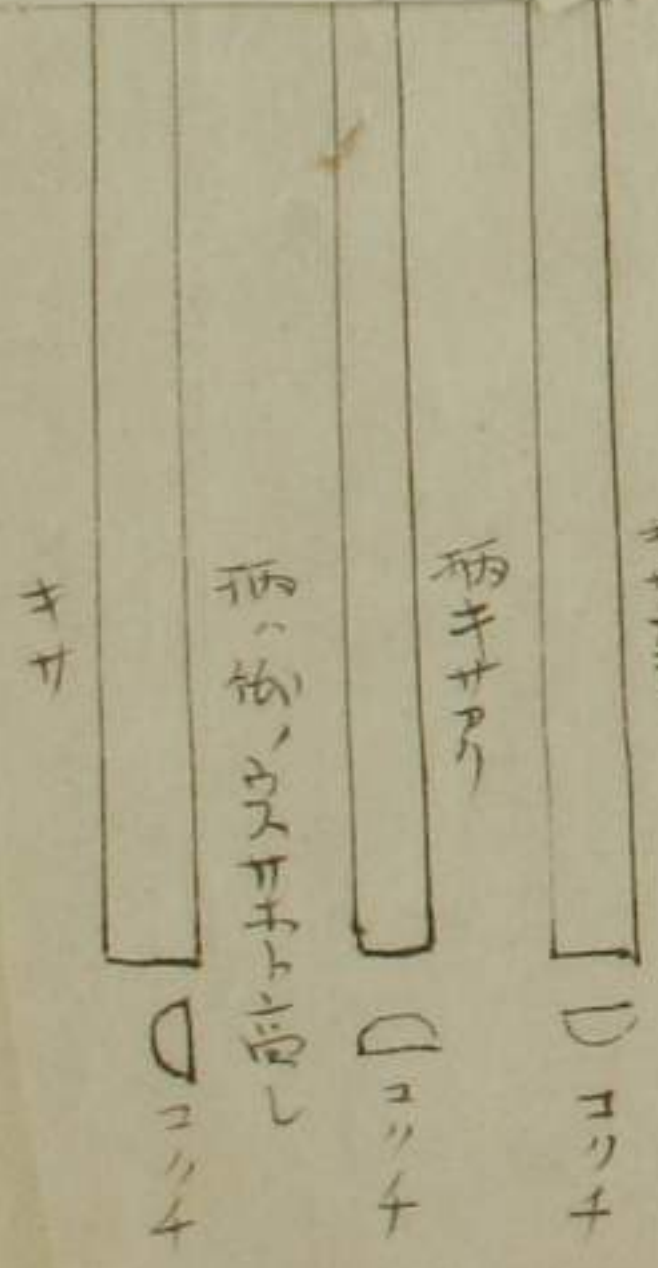
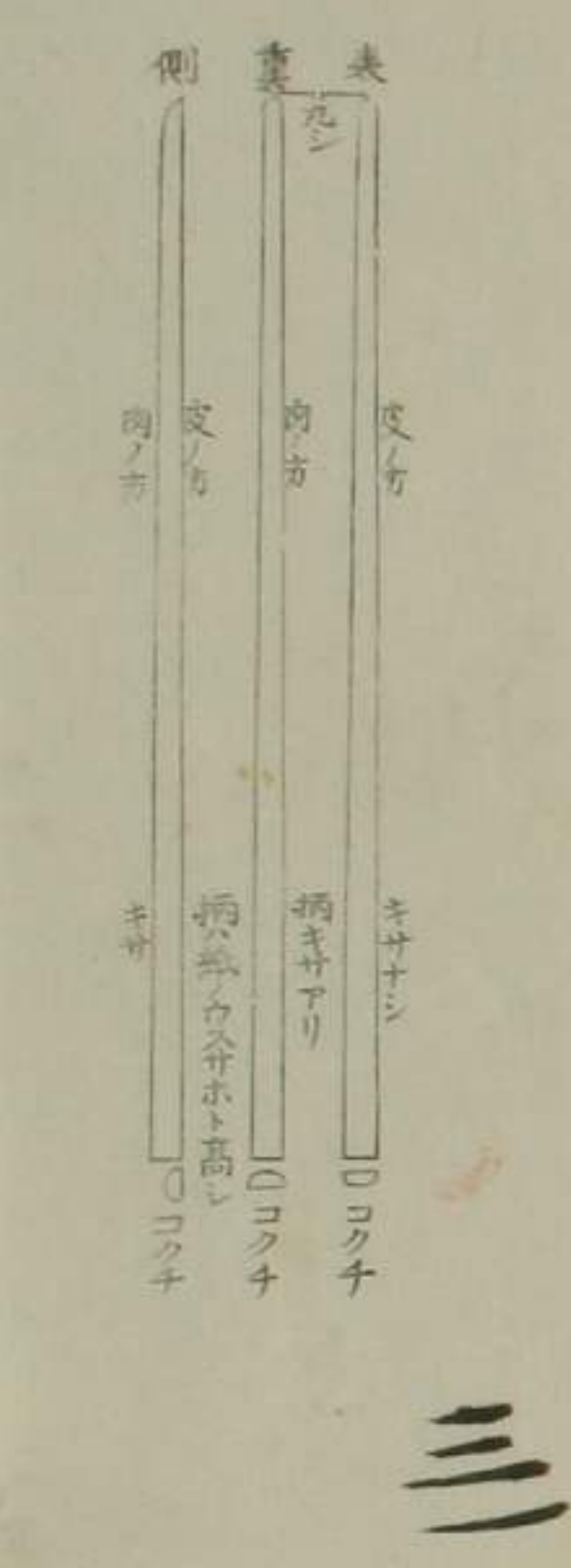
又建治二年春宮御書始後深草院御記ニ角筆

長五寸九分紫白糸但付之又永仁二年春宮御書始後

深草院御記ニ點圖角筆等分註ニ此兩物字士資宗所
 調進也角筆長六寸トコレヲニ所其形ヲオモヒヤルヘシ又雅
 遊漫録本知官家用筆ハ本筆ト云物ハ是字ヤキ也
 條頭筆ハ官位の高下ニ依リ紅紫青濃淡の法あり源氏
 物語に「つまじり」ト云是ナリ其圖伊勢氏ノ安齋隨筆
 三並筆ニ載ルトコロ左ノコトシ余モソノ形ヲ西山翁ヨリ得テ摸置
 コラチキ

~~山條~~
~~天~~

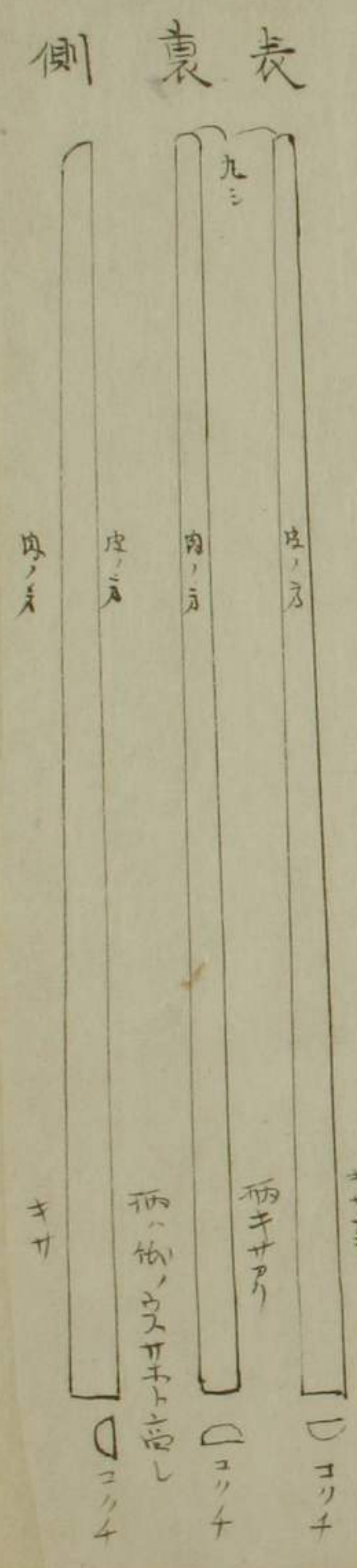
角筆之番



三

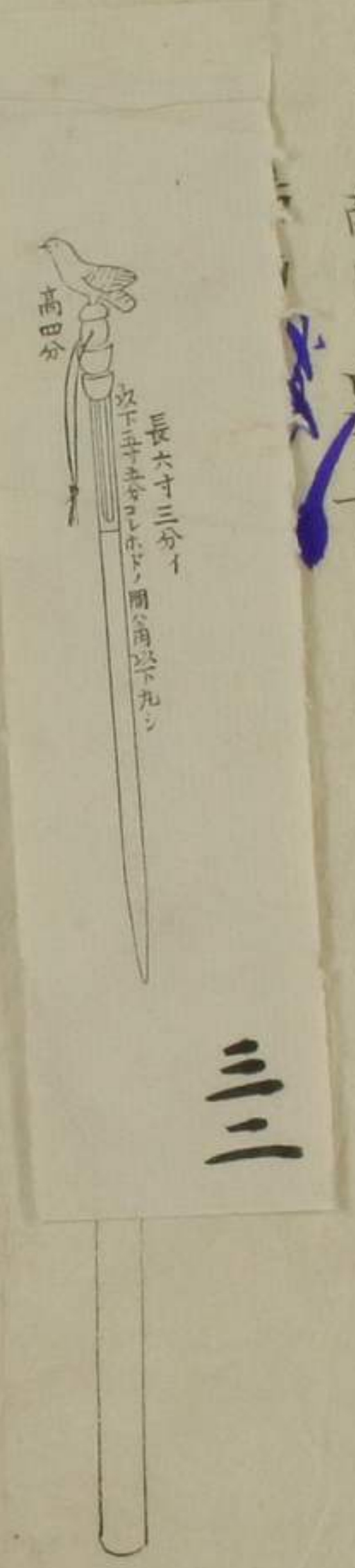
深草院御記ニ點圖角筆等分註ニ此兩物字士資宗所
 調進也角筆長六寸トコレラニ所其形ヲオモヒヤルヘシ又雅
 遊漫録本知官家用物給テ本筆ト云物あり是字ヤキ也
 條頭あり官位の高下により紅紫青濃淡の法あり源氏
 物語につまじり是は其因伊勢氏ノ安斎隨筆
 載ルトコロ左ノコトシ余モソノ形ヲ西山翁ヨリ得テ摸置

~~以條~~

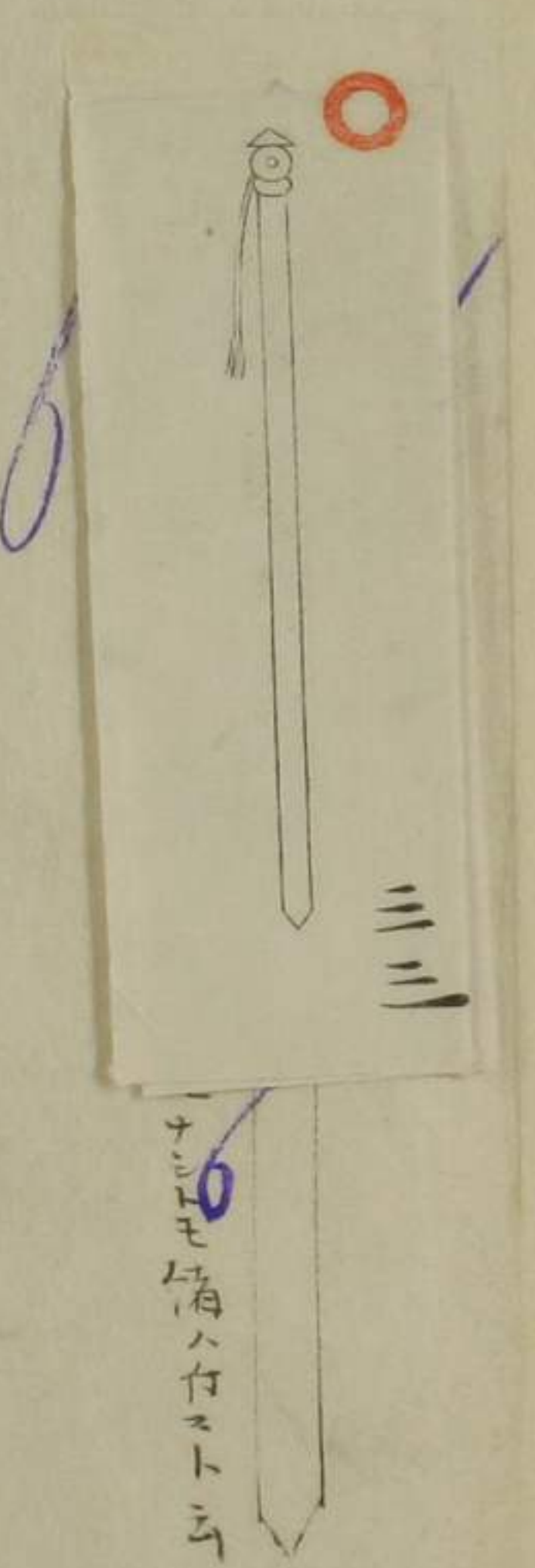


角筆之番

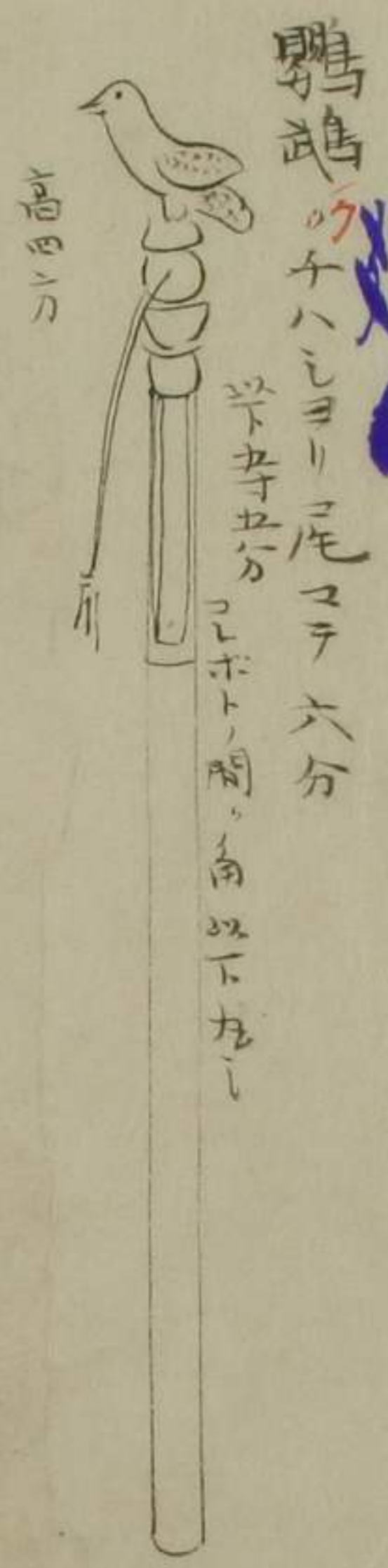
右ハ清原宣條御 正三位非参議 今伏原ト稱スヨリ 調進セラル、物ノヨミ竹ヲ以テ制ス皮ノ方平ニシテ肉ノ方九ニ皮ヲコソケズ天子皇太子ノ御字突長サハ寸其内柄長ニ寸五分五厘本末弘サ二分厚サ本末一分五厘竹節ナシ 侍讀尚後ノ字突長サ一尺二寸三分節ナシ弘サ二分末二分半 本厚サ一分五厘本末同し柄長サ三寸五厘形右ノ圖ニ同し是モ竹ナリ 侍讀モ尚後モ遠ヨリ 字々突ク故字突長シ



右ハ菅家ノ物ノヨシ滋野井大納言公鹿 御 門弟橋嘉樹ガ所藏ノ形ナリ

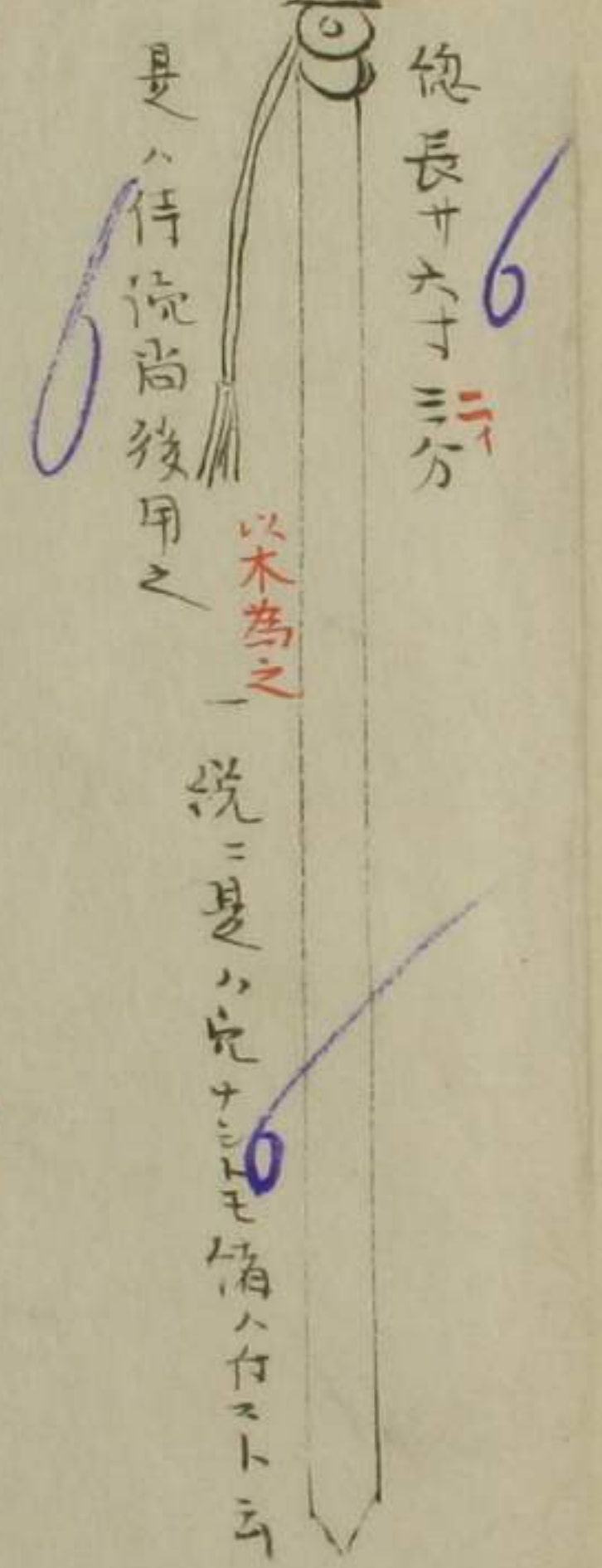


右ハ清原宣條御 正三位非参議 今伏原ト稱ス 調進セラル、物ノヨシ竹ヲ以テ制ス皮ノ方平ニシテ肉ノ方九ニ皮ヲコソケズ 天子皇太子ノ御字突長サ八寸其内柄長ニ寸五分五厘本末弘サ二分厚サ本末一分五厘竹節ナシ 侍読尚後ノ字突長サ一尺二寸三分節ナシ弘サ二分末二分半 本厚サ一分五厘本末同シ柄長サ三寸五厘形右ノ図ニ同シ是モ竹ナリ 侍読モ尚後モ遠ヨリ字ハ突ク故字突長シ

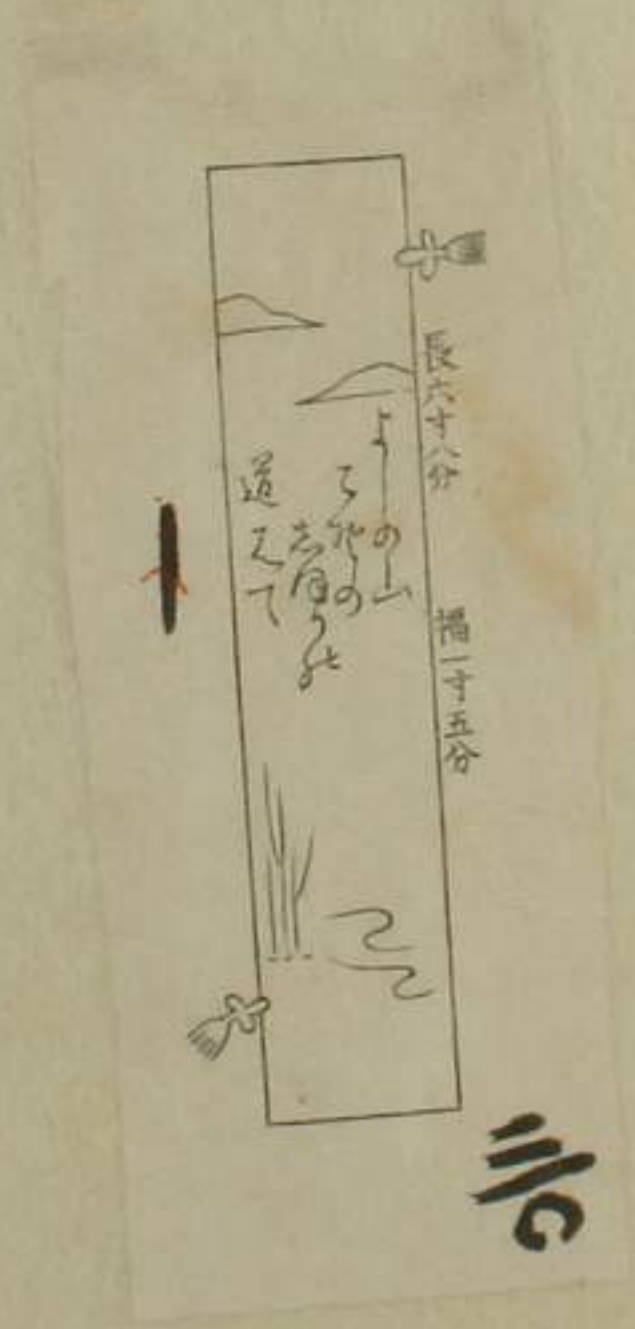
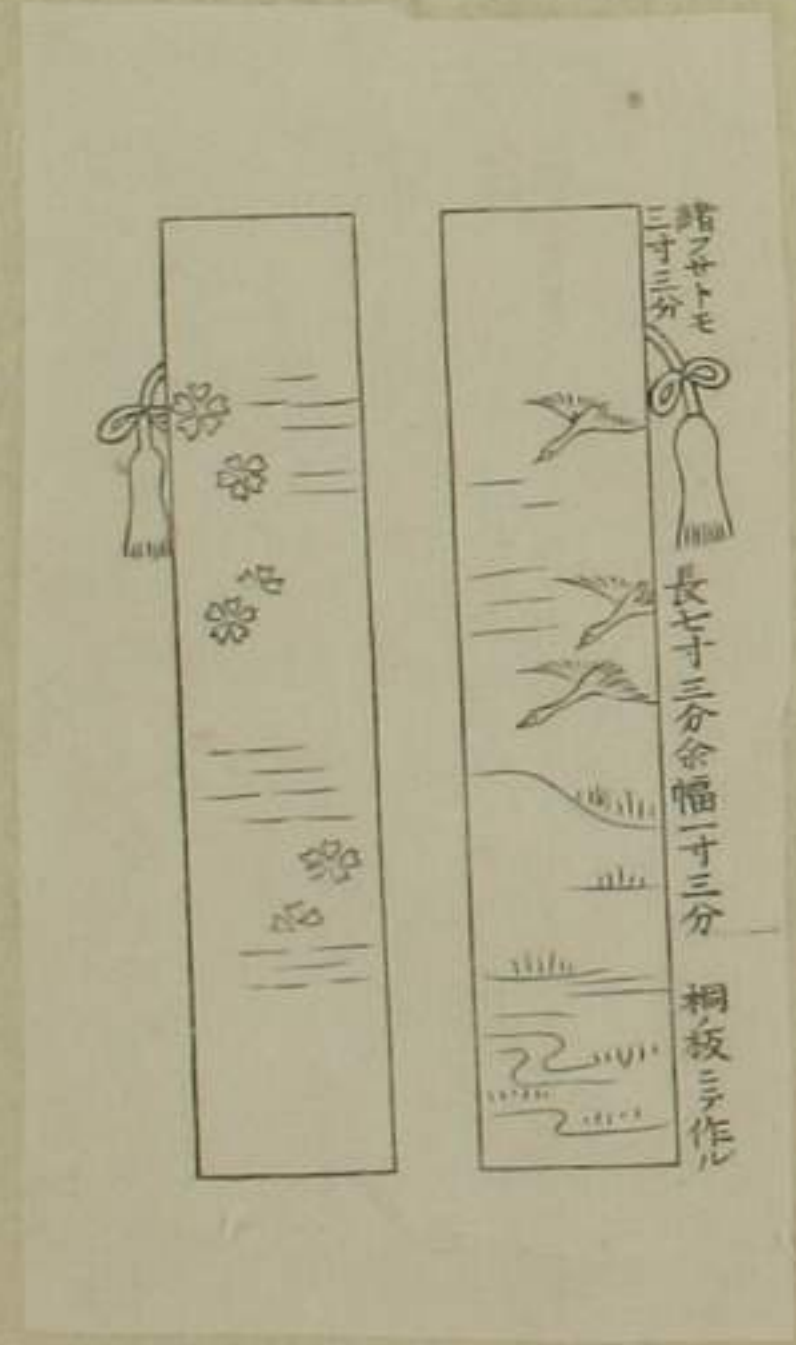
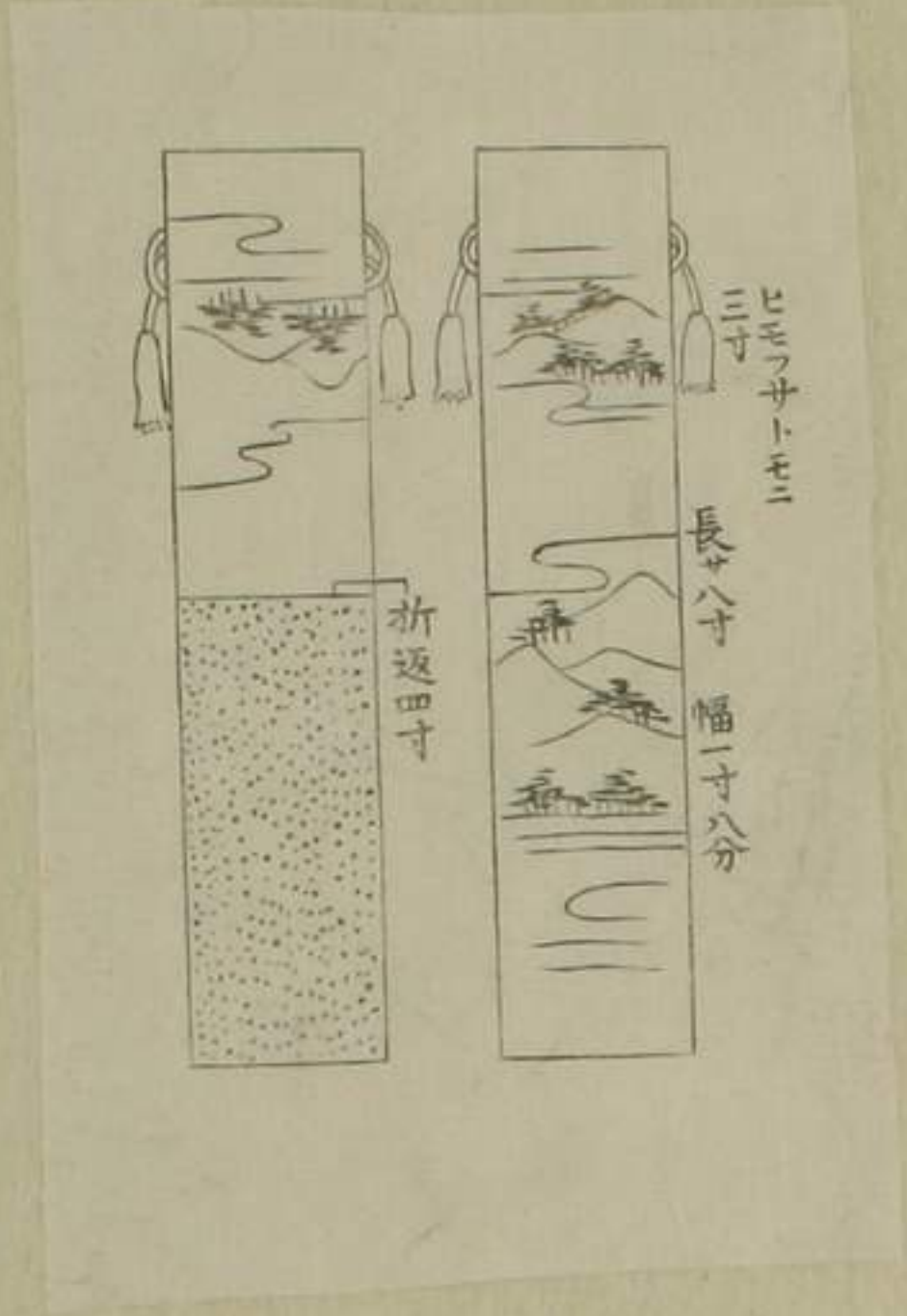
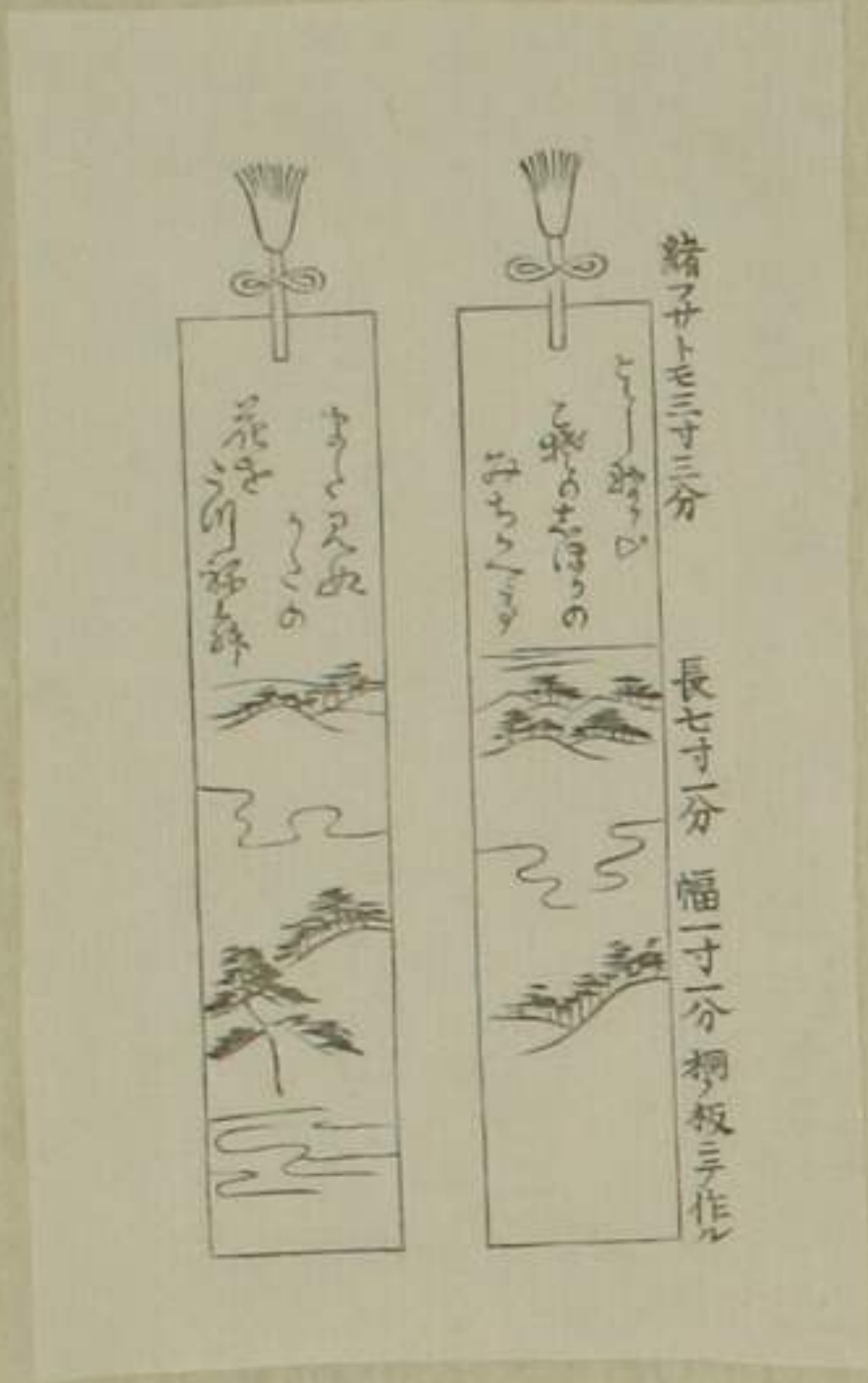


鴨高ハシヨリ

右ハ菅家ノ物ノヨシ滋野井大納言公鹿 御 門弟橋嘉樹ガ所藏ノ形ナリ



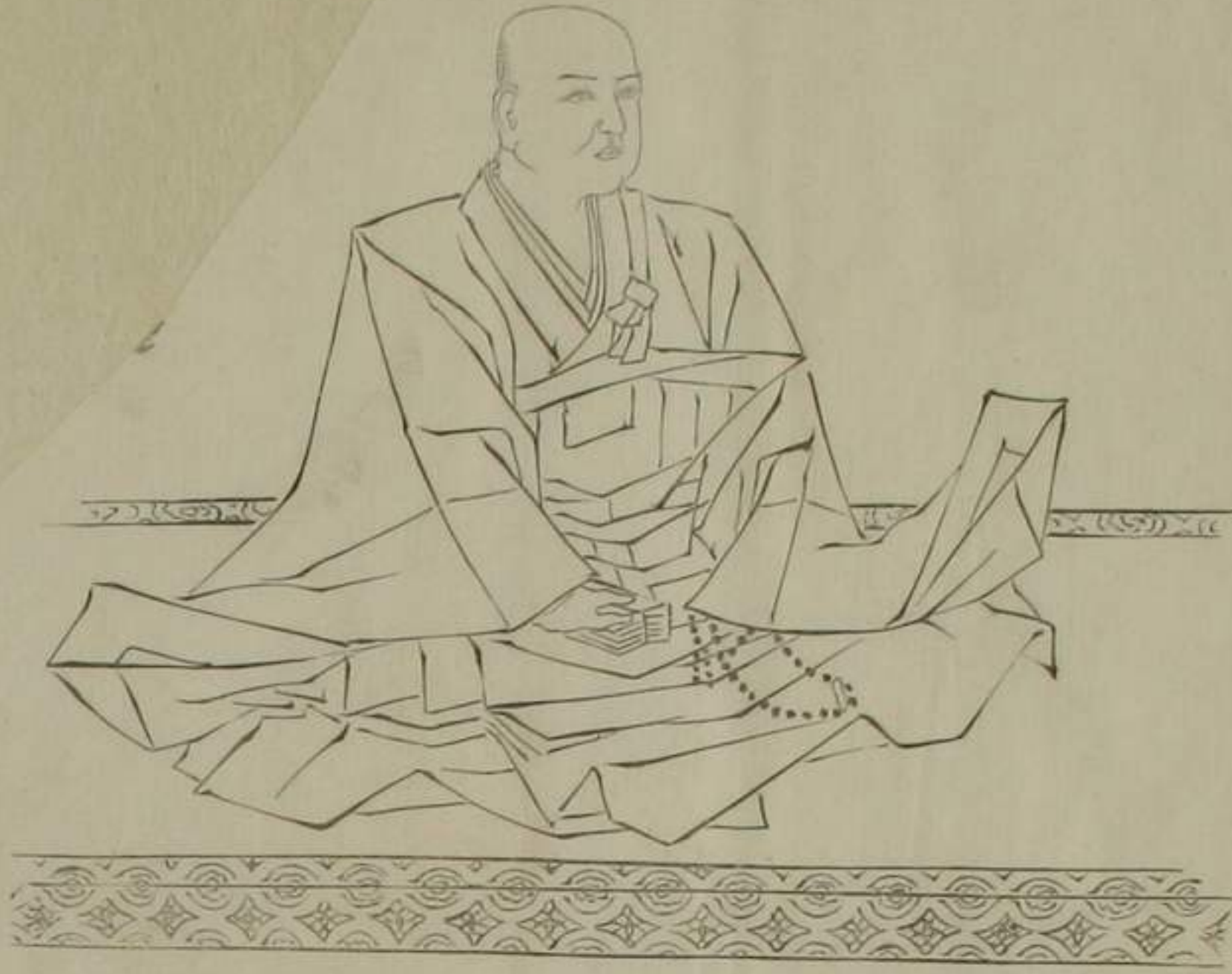
總長サ六寸三分



修理大夫貞顯



越後守實持



武藏前司貞将



前越後守顯持



